



公共図書館における愛着評価と地域性を考慮した図書館建築の関連

著者	山 有希
内容記述	筑波大学修士(図書館情報学)学位論文 ・ 平成29年3月24日授与(37741号)
発行年	2017
URL	http://hdl.handle.net/2241/00150825

公共図書館における愛着評価と
地域性を考慮した図書館建築の関連

筑波大学 大学院
図書館情報メディア研究科

2017 年 3 月

高山 有希

論文目次

第1章	はじめに	1
1.1	背景	1
1.2	目的	2
1.3	既往研究	4
1.3.1	場所としての図書館	4
1.3.2	愛着の応用とその構造	6
1.3.3	社会関係資本と愛着の関連	7
1.4	論文構成	8
第2章	研究手法	9
2.1	調査の設計	9
2.2	仮説	10
2.3	質問項目	11
2.3.1	物理的環境評価の項目	11
2.3.2	社会的環境評価の項目	11
2.3.3	図書館への愛着の評価項目	12
2.4	調査対象の選定	14
2.5	実施概要	17
第3章	分析結果	18
3.1	単純集計	18
3.2	尺度の関する信頼性の検討	22
3.3	愛着の形成要因の検討	23
3.4	愛着の形成要因の重みづけ	24
第4章	共分散構造モデルの推定	26
4.1	愛着形成モデルの検討	26
4.2	認知による影響の検討	27
4.3	認知を考慮したモデルの検討	29
第5章	考察	30
5.1	尺度の妥当性と愛着形成モデル	30
5.2	地域性、建築コンセプトの認知による愛着への影響	31
5.3	図書館への愛着の意義	32
第6章	結論	33
謝辞	34
参考文献	34
付録	37

第1章 はじめに

1.1 背景

図書館の在り方について、情報化による社会的ニーズの変化が起こり、新たな価値を持った図書館像が模索されている。公共図書館では 1990 年代頃から、従来の貸出型図書館から利用者が館内に留まり、読書や学習、その他の図書館サービスを受け、長期間の滞在を志向する「滞在型図書館」へと移行した。貸出型図書館では資料の貸借が目的であったが、図書館利用の浸透により利用者層が多様化し、映像資料や集会室、児童へのサービスなどが提供されるようになったことで様々なサービスを長時間にわたって利用できるように滞在型を志向するようになった¹。

さらに 2000 年以降では「課題解決型図書館」をかかげ、帰属する地域の市民のニーズに応じて活動を支援するためのサービスに力を入れ、地域の特色に合わせて課題を解決するためのサービスの提供が求められた²。自治体の政策決定に必要な資料の収集や、就職支援や職業能力開発に関する資料が提供され、それらを用いたレファレンスサービスにより課題解決支援に重点が置かれるようになっている³。また、大都市圏と比較して地方都市では大学、研究機関、博物館などの文化施設などの情報の拠点となる諸機関や、それらに関わる市民の数、産業、教育、文化等に関して情報提供の機会に格差があるといわれている。そのため地方都市において公共図書館の果たす役割は大きく、図書館を中心とした地域振興としてのまちづくりが行われている事例もある。

一方、情報技術の進歩により自宅から web を介して図書や資料の予約ができるようになり、予約した資料の受け取りはカウンターなどでできるようになってきている。書架でブラウジングする時間を省くことができ、在館時間の短縮につながっている。加えて郵送での資料の貸借サービスが一部で導入も始まっており、図書館に来館する利用の形態から、非来館型の必要な資料を取り寄せる利用へ変遷することも考えられる。このような web サービス、輸送サービスにより、現代の公共図書館が 1980 年代までの貸出型図書館へと後退していると危惧する声もあがっている⁴。

こうした状況において、「場所としての図書館」に注目が集まっている。これまで図書館に関する議論や研究では「図書館内部の機能」に焦点をあてたものが中心であったが、まちづくりや地域社会における機能、日常生活の一部といった新たな視点が加わることにより、学際的な議論が盛んになった。社会学的な視点から図書館を Oldenburg の「第 3 の場」^{5,6}として捉え、「第 3 の場」としての条件を公共図書館がいかに満たしているかどうかを検討している研究が行われている。さらに、地域における人々のつながりの強さを示す Putnam の「社会関係資本」⁷と「第 3 の場所」としての公共図書館を併せて検討し、公共図書館が地域の社会関係資本を構築する第 3 の場所としての社会的機能を持つことを示した研究⁸などがある。しかし、「場所としての図書館」を考えていくうえで指標となる、定量的に図書館を評価するための尺度の検討は、公共図書館における社会関係資本の研究を踏まえても充分に行われていない。

図書館の内部機能に着目した研究に対して、社会的な視点を求めようとする状況は建築学、土木学においても同様の要求があり、研究分野として先行していると考えられる。安福らによると、住宅の価値を指標化された住宅性能だけで捉えることは不十分であり、物理的な働きかけでないアプローチが必要であるとして、住宅における愛着の応用を行っている⁹。また土木学の分野で行われた公共交通機関に関する研究では、川本が公共交通機関の選択要因として社会関係資本を挙げており、居住地域への愛着との関係性も交えて社会的側面から計量的なアプローチで論じている¹⁰。

そこで本研究では、建築学や土木学において社会的な指標として用いられる愛着に着目して、図書館の空間的な評価を行う。愛着は本来、心理学における母子関係の精神的な結びつきの強さを表す概念と定義されてきたが、近年では住宅や地域を対象とした研究の中で、「人と対象との間の肯定的で情緒的な結びつき」として概念の拡張が行われている。建築学や土木学における愛着の意義とは、建築物や都市機能に対する価値を性能のみで測るのではなく、住民や利用者の心理的な作用も考慮して満足度の向上につなげる指針であり、インフラなどの都市機能の持続性や住宅への定住意向の形成¹¹につながるとされている。これは図書館建築においても同様であると考えられる。従来の図書館機能の評価や効率化だけでなく、図書館や利用者を取り巻く社会的な文脈を考慮することで、都市機能としての持続性や社会的意義を高めるためにも、図書館に対する愛着の尺度の応用を検討するものである。

1.2 目的

本研究では、図書館に対する物理的な評価だけでなく社会的な評価のひとつである「愛着」を尺度として定義し、愛着の形成過程を明らかにすることで建築計画に対して示唆を得ることを目的としている。具体的には以下の項目について検討することを目的とする。

- (1) 公共図書館に対する愛着尺度の応用
- (2) 愛着と図書館評価との関係性
- (3) 「地域性を考慮した建築」の愛着への影響

愛着は心理学において母子関係の精神的な結びつき強さを表す概念であり、母親がいなくなった時の幼児の行動をもとに測定される¹²。建築学において応用される愛着は、「場所への愛着」とされ、場所と人との持続的、肯定的な結びつきと定義される¹³。本研究における愛着は、場所である図書館と利用者との結びつきに対して応用する。公共図書館における愛着尺度を明らかにすることにより、物理的環境と社会的環境、利用者と図書館との結びつきなどから図書館を包括的に評価することができ、図書館の建築計画や経営計画に対する示唆とし、地域社会の中にある図書館としての在り方を検討することができる。

また、図書館の物理的環境と社会的環境に対する評価も尺度として、愛着尺度と併せて明らかにする。これにより尺度間での関係性を検討することができ、愛着の形成要因と影響をモデル化することで図書館の建築・運営に関して指針を示すことができる。

建造物に対する愛着の概念を応用した住宅への愛着形成過程モデル¹⁴では「記憶」による愛着の形成が検討されているため、本研究でも利用者の共通する記憶を「地域性」と捉え、その影響も検討する。地域の特徴や文化などを「地域の共通の記憶」、地域性として建築に反映させる事例は多くあるが、その効果を定量的に評価したものは少ない。そこで地域性を考慮した建築が図書館に対する愛着に及ぼす影響を明らかにすることで図書館建築計画の一助とする。

1.3 既往研究

本研究と関連ある分野の既往研究を概観し、現状の把握と研究の位置づけを確認する。

1.3.1 場所としての図書館

そもそも図書館という物理的な場所に社会的な価値、文化的な価値を見出す研究は 1990 年代半ばからアメリカの図書館業界において議論が進んできた。

・場所としての図書館

「場所としての図書館」の議論において場所としての図書館の研究意義について Wiegand は、これまでの図書館研究における「図書館の生活の中での利用者」という視点から、「利用者の生活の中での図書館」という視点への拡大を挙げている¹⁵。従来は図書館の内側の機能に焦点を当てて研究が行われてきたが、利用者の日常生活の中に位置する機能として図書館を認識することで社会学や人文学、建築学などにも視野を広げられ、より公共的な価値と役割の理解につながるとされている。

根本によると物理的な場所としての図書館の研究は、その図書館の置かれた場所や外観、建築素材、内部空間、書架配置などが建築家の意匠によって組み合わせられて生じる新しい価値を探るものとされている¹⁶。しかし、このような図書館における物理的な評価に関する研究は Wiegand が指摘した「利用者の生活の中での図書館」研究の枠組みに即しているとはいえず、運営主体や管理者などの図書館提供者側の視点に立ったものであるため、社会的な文脈を有していない点が問題であると指摘されている¹⁷。

場所としての図書館の議論の経緯に関する研究は久野によるもの¹⁸が詳しく、既往研究をレビューしながらこれまでの場所としての図書館研究を整理している。その中で、場所としての図書館に関する図書館建築学的アプローチについても言及しており、今後の図書館建築学において「人間の身体的感覚、感情を理解し、より快適な空間と建物を創り出すことが望まれる」としている。

・居場所としての図書館

日本の建築学の分野では、地域社会における「居場所論」が図書館でも論じられ「居場所としての図書館」という概念が形成されつつある¹⁹。まだ少数ではあるが、調査研究も行われている。

居場所としての図書館に関する実証的研究としては中井によるもの²⁰があり、公共図書館と大学図書館での利用者の行動に着目し、比較検討することで図書館という「場」に何を求めているのかを明らかにすることを目的とした研究を行っている。アンケート調査と図書館内での着座や資料探索などの行動調査を行い、大学図書館では利用者がアナログ資料とデジタル資料の両方を求める傾向の抽出や交流の場所としての利用選択の可能性、居場所としての利用などの利用行動を明らかにしている。

牧野らによる研究²¹では、中高生世代の利用意識や利用行動のパターンに着目し、中高生世代が公共図書館を居場所として利用する場合に期待する施設像を明らかにすることを目的として質問紙調査による分析を行っている。結果として、中高生は図書館の魅力を空間として感じる事が示され、利用者の属性ごとの利用意識も明らかにしている。それによると中学生の単独利用では「落ち着いた心地よい空間」への期待度が高く、高校生の単独利用では「多様な空間に対して魅力を感じる割合が高く、メリハリのある空間」を期待しており、家族との同伴利用だと「図書化に近く、かつ集中できる閲覧席」に対する期待度が高いとしている。

秋野らの研究²²では、地域に複数の図書館がある市を対象とし、図書館の選択動機から貸出以外の図書館の魅力を明らかにすることで「居場所」としての図書館計画について示唆を得ることを目的にしている。質問紙調査の結果から利用者は「多くの要素を意識した相対的な選択利用」を行っているとした。居住地から図書館までの距離が利用者にとってもっとも高い選択要因として挙げられていたが、図書館が所在する地域の特性に大きく影響を受けるとしており、複数の図書館を利用目的や気分に応じて使い分ける利用者行動を示している。

畠中らの研究²³では、コミュニティ形成の場所としての図書館に注目して、図書館が地域の核としてコミュニティ形成の場となる可能性を探り、24時間開館型図書館での利用行動などからその有効性を明らかにすることを目的としている。手法として、ヒアリング調査・行動関節調査・アンケート調査を実施して図書館管理者の考える図書館、利用者の志向性と行動実態からコミュニティ形成の場としての可能性を明らかにしている。結果として住民は図書館に対して「親しみやすさ」を持ってコミュニティ形成の場として利用しており、利用者間での会話はあまり見られなかったが、図書館職員との会話が多く見られたとしている。

日本の建築学における「居場所としての図書館」研究は、ある程度「場としての図書館」研究の枠組みに即しているといえる。上記で示した既往研究は「利用者の意識」に着目して図書館建築に還元しようとする姿勢が見られた。しかし、還元するために指標とする尺度や定量的な指針は示されていないことは課題であるといえる。

「場所としての図書館」研究の現状において、本研究が着目する「愛着」は図書館利用者に対する心理学的アプローチであり、その結果を物理的な建築に反映させるための指標と知見を得ようとするものである。図書館への愛着は新たな視点であり、利用者の社会的側面を表す指標であると考えられる。この意味で本研究は新規的なものであるといえる。愛着の形成要因を明らかにすることと、従来の物理的な研究とを併せて、これからの「場所としての図書館」の在り方を検討することは、今後の「場所としての図書館」に関する図書館建築学的な観点での基礎であると捉えられる。

1.3.2 愛着の応用とその構造

愛着の概念の建築・土木研究への応用は、住宅・居住地域に対して行われている。

・住宅への愛着

住宅への愛着の応用について、安福らは既存の住宅への「愛着の効果」に注目するだけでなく、その形成過程に着目して理論的検討を行っている²⁴。

²⁵。その中で人が精神的な結びつきである愛着を持つ対象は、人に限らず物についても同様に考えられるとし、物への結びつきも人に対する結びつきと同様に精神的向上を与え、かつ主体が対象を大事にするといった効果を見込んでいる。同時に、人と住宅との結びつきの構造を「場所」の性質と「モノ」の性質に分けて検討している。「場所」の性質は対象の社会性に対する所属感と場所自体に対する感情的結びつきにより構成され、「モノ」の性質は客観的性能と独自性、場所における他者との結びつき、個人的な記憶によって構成されると定義されている。しかし、住宅における愛着の尺度を定める研究は充分に行われていたとは言えず、その構成要素に関する検討に留まっている。

吉岡らの研究²⁶では、住宅への愛着の形成過程について共分散構造モデルを用いて検討している。住民の「五感の感受性」に着目し、住宅周辺の自然環境が愛着の形成について与える影響の検討を目的として質問紙調査を行い、関係性を示している。これによるととも時代住宅周辺の自然環境とその環境に対する五感的感受性が住まいへの愛着を形成するとしている。しかし、質問項目の設定において愛着の観測変数を「住まいへの愛着の程度」として回答者に判断を委ねており、統制された愛着の評価とはいえず、内的整合性や因子分析を行っていないことから尺度としては不十分であると考えられる。

・地域への愛着

地域への愛着については、引地らによる研究²⁷が詳しく、既存の対人関係や集団の社会的側面に基づく愛着の形成要因だけでなく、物理的な要因についても検討すべきと新たな視点を示した。地域への愛着に対して、社会的アイデンティティ理論をもとにした理論フレームを用いた形成機構の検討を行っている。社会への所属意識が自己のアイデンティティ形成の要因とする社会的アイデンティティ理論を援用して、居住する地域を所属集団、愛着を個人と地域を結ぶ絆と定義づけを行っている。研究手法としては、郵送法による質問紙調査を全国の市区町村の有権者に対して行い、回答をもとに統計分析を行っている。共分散構造分析により、社会的環境評価と物理的環境評価による愛着形成の構造モデルが示され、社会的環境評価が高いほど愛着が高まり地域に対する協力意向も高まることを明らかにしている。地域への愛着と物理環境・社会環境の評価に関して尺度が検討されているが、愛着以外の内的整合性は高いと言えず改善の余地が残る。

加藤による、高齢者を対象とした近隣環境への愛着に関する研究²⁸は、近隣環境への愛着の実態把握と愛着を持って継続的に住むことのできる環境的要因を探ることを目的に行わ

れた。調査手法としてはインタビュー調査を採用し、対象とした高齢者に対してどういった場所、場面でどの程度の愛着を感じるかを調査することで分析した。その結果、近隣環境での愛着の形成の場面は自宅からの距離や、継続的な関与に関わらず愛着を形成していることを明らかにしている。また、愛着の形成の実態として、コミュニケーションを足ることのできる公共施設や公園といった項目が挙げられ、愛着とコミュニケーションの関連性が示唆されている

長谷による、地域への定住と愛着に着目した街づくりに関する研究²⁹では、課題意識として、多様な社会関係資本とプラットフォームの希薄さがあると捉え、愛着や定住意識などから安心して暮らし続けるまちづくりへの課題とその要因を明らかにすることを目的としている。地域全体へのアンケート調査をもとに分析しており、愛着の形成と定住意識の関係について有意に関係していると示している。また、住民に対して「まちに愛着を持つ理由」を訪ねており、そこから愛着の要因として「長く住み慣れている」、「近所付き合いが良い」、「自然環境の良さ」などを挙げている。愛着の形成については、居住年数と定住意識、住民のまちづくりへの参加意識が「循環的に」関係して形成されると考察している。

1.3.3 社会関係資本と愛着の関連

愛着の効果について社会関係資本と同様の「協力的行動を促す」といった表現を用いる研究が散見されるが、社会関係資本と愛着の関連性について直接的に検討した論文はほとんど見られない。

小林らの第3の場による地域への協力意向の形成に関する研究³⁰は、非常設型のカフェにおいて利用者の属性とカフェでの経験の差異が「地域への愛着」と「協力意向の形成」に与える影響を明らかにする目的で行われた。調査はカフェ利用者への質問紙調査を用い、統計的分析によって地域への愛着と協力意向形成の関係性を明らかにした。地域に対する愛着の高まりにより協力意向が形成され、結果として第3の場の運営に関わる住民や新たな利用者層への波及によりコミュニティ形成という形で社会関係資本が向上することを結論としてまとめている。

鈴木らの研究³¹では、風土との接触によって醸成される愛着と地域への協力的行動などの諸要因との関係性を示すことを目的とし、質問紙調査を行っている。質問紙調査の結果と共分散構造分析により、「交通行動」が「地域風土との接触」の機会となり、「地域への愛着を介して地域での協力的行動に影響を及ぼす」ことを明らかにしている。また、地域への愛着が高い住民ほど、地域内への態度・協調行動、すなわち社会関係資本が高いことも示している。

上野による研究³²は、社会関係資本の指標化についての曖昧さを超えるため統計的分析によって社会関係資本の階層構造を明らかにすることを目的としている。分析手法はマルチレベルモデル分析を用いて行い、データは農林水産省が計測した社会関係資本のデータを

利用している。分析の結果、個人レベルでの信頼や地域への愛着が高まることで社会関係資本の向上が確認されている。

これらの研究から「第3の場による社会関係資本の醸成と地域への愛着の関係性」、「愛着と社会関係資本が協力意向の形成へ与える影響」、「社会関係資本と愛着の階層性」が既往研究として示されているといえる。

1.4 論文構成

本稿は、評価尺度の策定、評価項目間の関係性に関する分析、図書館への愛着の要因と影響のモデルの検討によって構成される。

第2章では、図書館の評価尺度について質問紙の設計と調査対象となる図書館の選定を行った。既往研究を踏襲し、図書館の社会的環境・物理的環境の評価と図書館に対する愛着の評価尺度を設計した。

第3章では、質問紙調査の結果から評価尺度の検討を行った。第2章で設計した質問紙調査の結果を基に信頼性係数による整合性の確認を行い、質問項目を精査した。さらに、愛着とその他の項目との関係性を明らかにするために相関分析を行った。相関分析の結果を踏まえ、愛着に対するその他の項目の影響力を測定するために重回帰分析を行った。加えて調査結果を概観し、対象館の利用者属性や来館目的などの利用実態を明らかにした。

第4章では、第3章での相関分析、重回帰分析の結果から各指標間の関係性を考慮し、共分散構造分析により図書館への愛着の要因と影響のモデルを検討した。また、モデルの適合度の向上のために、分散分析を用いて第3章で除外した項目の再検討を行う。

第5章では、分析結果と図書館への愛着の要因と影響のモデルの結果を考察する。

第2章 研究手法

本研究では、「公共図書館への愛着尺度の応用」と「愛着と図書館評価との関係性」、「地域性を考慮した建築の愛着への影響」を明らかにすることを目的としており、質問紙調査による評価尺度の検討と共分散構造分析による尺度間の関係性の明確化を行う。本章では質問紙調査について、質問票の設計、調査対象館の選定、調査対象館の概要、実施概要を記述する。

2.1 調査の設計

質問紙調査では、「図書館への愛着」と、「図書館の物理的環境評価」、「図書館の社会的環境評価」の三種の尺度を測定することを目的に調査票の設計を行った。図書館に対する愛着の測定尺度を検討した既往研究はなく、建築学や土木学で住宅や地域に対する愛着の検討が行われている。愛着の測定尺度について詳しいものは、地域への愛着の形成機構を主題とした引地らの研究³³が挙げられる。「場所としての図書館」に関する既往研究³⁴で指摘されている「利用者の生活の中にある図書館」研究の枠組みも併せて考慮し、物理的環境評価、社会的環境評価から地域への愛着尺度の質問項目を作成した。

また、「地域性を考慮した建築」を図書館への愛着の形成に影響を与える要素として質問項目に採用した。従来、愛着の形成に影響を与える要素としては「1.3 既往研究」でも示されていた通り、住宅の場合は「居住年数」が一般的であり、地域の場合も地域に対する「居住年数」と「地域風土との接触」などが検討されてきた。そこで図書館においては、風景・地形・特産建材・街並みなどの地域性が考慮された建築を行うことによって、地域社会との連続性や一体感が生まれることが期待されると考えて質問を採用した。図書館建築が地域社会を構成する要素として受け入れられることは、利用者にとって図書館が自分の帰属している地域社会の一部という認識につながると考えられ、社会的な文脈である愛着との親和性が高いと考えられる。

地域社会の一部として認識されるような「地域性を考慮した建築」を志向することは「利用者の生活の中にある図書館」研究の枠組みにも適していると考えられる。しかし、地域性を考慮した建築を行っただけでは、その地域性自体を利用者が知らない場合や、建築が地域性を考慮したものであると知らない場合は、利用者が地域社会との一体感を感じることは難しい。そこで本研究では、「地域性を考慮した建築」であることの認知を「愛着形成の影響を検証する項目」として設定した。間接的な項目だが、利用者の感覚を主体として建築計画への示唆を得ることを志向しているため、利用者が感じ取れる範囲での建築とする必要があり、「利用者の生活の中にある図書館」研究としては適切な設問であるといえる。

2.2 仮説

既往研究での知見と研究目的から本研究における仮説を設定する。

- (仮説 1) 愛着尺度は図書館においても応用可能である
- (仮説 2) 物理的環境評価、社会的環境評価は図書館への愛着に対して影響関係を持つ
- (仮説 3) 図書館の継続利用年数は愛着に対して影響関係を持つ
- (仮説 4) 地域性を考慮した建築であることの認知は愛着に対して影響関係を持つ

図書館への愛着の尺度はこれまで検討されてきていないため、地域性への愛着の尺度を参考に図書館への応用を検証する。検証は尺度における内的整合性による尺度の一貫性の確認をもって行うこととする。(仮説 1)

既往研究にある地域への愛着の形成モデル³⁵では、物理的環境評価と社会的環境評価が愛着に対して影響関係にあることが示された。地域社会の機能としての図書館も地域と同様に、地域住民が評価可能な建造物としての物理的要素と図書館職員や他の利用者とのコミュニティ形成といった社会性を有しているため、物理的環境評価と社会的環境評価は図書館においても愛着に対して影響関係があると推測される(仮説 2)。

住宅への愛着の研究において、愛着の形成に大きな影響を与える要因として、一般的に居住年数が挙げられている³⁶。しかし、地域への愛着の形成モデルでは影響を与える要因ではあるが、環境評価よりも影響力は小さいとされている。影響の程度は対象によって変わることが考えられるが、住宅と地域の両方でその集団に所属している期間の長さが愛着の形成に影響を与えていることは共通している。そこで本研究では、図書館を継続的に利用してきた年数が愛着の形成に対して影響関係を持つという仮説を立てて影響の有無と大きさを検証する(仮説 3)。

また、「2.1 調査設計」で前述したように「地域性を考慮した建築」が図書館への愛着の形成に影響関係を持つと推測する(仮説 4)。このとき、利用者が地域性自体を認識していない場合、建築による地域社会との同一性を感じる事が難しい場合も考えられるため、「地域性の認知」も新たに項目として設けて、補助的に検証を行う。

2.3 質問項目

物理的環境評価と社会的環境評価、図書館への愛着評価に関して、それぞれの項目（表 2-1）とそれらに基づく下位項目を 3 種類ずつ、計 39 の質問項目を設定し、それぞれの下位項目に対して「そう思うかどうか」を 5 件法で設定した。実際に用いた項目の一覧を（表 2-2）で示す。

物理的環境評価	社会的環境評価	愛着評価
景観	交流	継続利用
歴史	イベント	所属意識
調和	人的サービス	依存
シンボル	安心	評価
サービス・設備		

表 2-1 尺度における項目

2.3.1 物理的環境評価の項目

物理的環境への評価項目は、地域に対する愛着に関する既往研究³⁷では、「景観」、「歴史的風景」、「ランドマーク」、「医療施設」、「特産物」と設定されていた。これらを図書館に応用するために、「景観」、「歴史」、「調和」、「シンボル」、「サービス・設備」とした。地域における「医療施設」は、その地域の利便性、機能として解釈されるため、図書館においては「サービス・設備」と定義した。また、「特産物」は図書館に応用することが困難であると判断し、項目から除外した。

「景観」とは、図書館の概観、内装に関する評価と、施設内の設備や備品の整頓に関する美観を評価する項目である。「歴史」とは、図書館自体の歴史の事実確認と、印象評価からなる項目である。「調和」とは、図書館が地域の街並みに馴染んでいるかどうか、地域や自然の風景と対比した時に違和感がないかどうか、またそれらとの統一感が合えるかどうかを評価する項目である。「シンボル」とは、図書館におけるシンボルの有無の事実確認と、図書館から連想できる空間の有無、特長の有無を評価する項目である。「サービス・施設」は、物理的なサービスの内容として、読書スペース、学習スペースの充実度とレファレンスデスクの有無、読み聞かせの空間の評価からなる項目である。

2.3.2 社会的環境評価の項目

社会的環境への評価項目は、地域に対する愛着に関する既往研究では、「住民との交流」、「イベント」、「住民の人柄」、「治安」と設定されていた。物理的環境への評価項目と同様に図書館へ応用するために、「交流」、「イベント」、「人的サービス」、「安心」とした。「交流」では図書館職員と他の利用者との交流を評価し、「安心」では他の利用者によって利用

が妨げられないかどうか、図書館を安心して利用できるかどうかについて評価する。既往研究では住民の「人柄」とされていた項目は、協力関係の有無や、信頼関係の有無であると解釈し、図書館職員のサービス提供時における関係性の評価する「人的サービス」とした。

「交流」とは、図書館利用時に職員や他の利用者との会話の有無と会話に対する意向を評価する項目である。「イベント」とは、図書館で行われるイベントに対して、参加事実の有無と利用者としての参加意向、イベントへの積極的な関与意向について評価する項目である。「人的サービス」とは、図書館におけるサービス利用時の職員との関係性に関して事実確認と印象評価からなる項目である。「安心」とは、図書館内において他の利用者によって自身の利用が妨害されないかどうか、他の利用者が図書館のルールを守れているか、図書館職員の安心への寄与度を評価する項目である。

2.3.3 図書館への愛着の評価項目

愛着の評価項目は、既往研究では、「定住意向」、「所属意識」、「土地の重要さ」、「住民の重要さ」、「住みやすさ」と設定されていた。図書館への愛着評価への対応として、「継続利用」、「所属意識」、「依存」、「評価」とした。地域における愛着の評価項目として設定されていた、「土地の重要さ」は住民にとって土地がなくてはならない存在であるかを評価する項目であったため。図書館への依存関係であるとして、「依存」を設定した。また、「住みやすさ」は土地が住みよい場所であるかを評価する項目であったため、図書館全体の評価を質問する、「評価」として設定した。

「継続利用」とは、今後の継続的に地域の図書館を利用したいと思うかどうかについて評価した項目である。「所属意識」とは、図書館を利用することが利用者にとっての生活の一部となっているかどうかと、図書館自体が地域の一部だと感じるかどうか、自ら図書館の活動に参加したいと思うかどうかを評価した項目である。「依存」とは、利用者にとって図書館がなくてはならない存在であるかどうか、地域にとって重要な存在であると感じるかどうかを評価した項目である。「評価」とは、図書館の利用について満足度、快適性などを評価した項目である。

表 2-2 質問紙調査：質問項目一覧

物理的環境評価	景観	<ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館の外観は美しい 2. 図書館の内装は利用していて落ち着く 3. 館内の設備は整頓されている
	歴史	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歴史ある図書館である 2. 図書館の建物から歴史を感じる 3. 歴史的な雰囲気のある図書館だと思う
	調和	<ol style="list-style-type: none"> 1. 建物は地域の街並みに馴染んでいる 2. 街の景観に対して図書館は違和感がない 3. 周辺の風景との統一感がある
	シンボル	<ol style="list-style-type: none"> 1. 他の図書館にはないシンボルがある 2. この図書館と聞いてイメージできる空間がある 3. 図書館に関して思い浮かぶ特徴がある
	サービス・設備	<ol style="list-style-type: none"> 1. 読書スペースや学習スペースは充分にある 2. レファレンスデスク(質問の受付コーナー)が整備されている 3. 読み聞かせのための空間がきちんと用意されている
社会的環境評価	交流	<ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館を利用するときは一人きりでいたい 2. 図書館職員や他の利用者と日常的な会話をすることがある 3. 他の利用者や職員と交流を持ちたいと思う
	イベント	<ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館で行われるイベントに興味がある 2. 図書館で行われるイベントが楽しみである 3. 図書館のイベントに積極的に参加したい
	人的サービス	<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用に関して困った時は職員を頼ることが多い 2. 難しい質問をしても職員は的確に回答してくれると思う 2. 図書館職員は親切だと感じる
	安心	<ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館の利用が他の利用者によって妨げられることはない 2. 他の利用者はきちんと図書館のルールを守って利用している 3. 図書館を安心して利用できるのは図書館のおかげである
愛着評価	継続利用	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今後もこの図書館を利用したいと思う 2. この図書館にまた来たいと思う 3. 今度は他の図書館を利用しようと思う
	所属意識	<ol style="list-style-type: none"> 1. この図書館を利用することは生活の一部である 2. この図書館は地域の一部であると感じる 3. 手伝えることがあれば図書館の手伝いをしたいと感じる
	依存	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分にとってなくてはならない図書館である 2. この図書館がないと困ってしまう 3. この図書館は地域にとって重要な存在だと思う
	評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. この図書館は気持ちよく利用できる 2. この図書館は満足できる図書館である 3. 図書館は快適に利用できる

2.4 調査対象の選定

本研究では公共図書館を研究対象とし、図書館への愛着の評価尺度を明らかにすることで図書館の建築計画への示唆を得ることを目的としている。そこで研究対象である公共図書館は建築的にも一定の評価を得ている事例であることが望ましいと判断し、雑誌『新建築』を用いて文献調査を行った、1995年1月号から2015年12月までの20年間に刊行された約240号に掲載されている作品の中から日本における公共図書館、公共図書館を含む公共施設を64施設抽出した。この64施設のうち、調査の設計で定めた「地域性を考慮した建築」が設計コンセプトとして読み取れる図書館が8施設見られた（表2-3）。

このうち、調査の可能性を考慮して所在地が関東圏である、「飯能市立図書館」、「からきだ菖蒲館」、「真壁伝承館」の3施設を抽出し対象館とした。

表 2-3 地域性を考慮した建築がなされている図書館の一覧

掲載年月日	施設名	地域性	所在地
2013.6	飯能市立図書館	地元建材の積極的利用：西川材	埼玉県飯能市 山手町19番5号
2013.12	豊後高田市立図書館	景観との調和：瓦屋根の街並み	大分県豊後高田市御玉101-1
2011.7	からきだ菖蒲館	地域記憶（地形の継承）	東京都多摩市鶴牧6丁目14
2011.10	真壁伝承館	歴史景観の継承：サンプリングアセンブリ	茨城県桜川市真壁町真壁198
2009.5	大船渡市民文化会館	穴通し磯（地域名勝）の表現	岩手県大船渡市盛町下館下18-1
2008.3	呉市音部市民センター	瓦と自然が連なる周辺の集落の景観との融合	広島県呉市音戸町南隠渡1丁目7-1
1998.5	宮城県立図書館	既存の地形との調和	宮城県仙台市泉区紫山1丁目1-1
1997.3	泉佐野市総合文化センター	地形との連続性	大阪府泉佐野市 市場東1丁目295-1

・唐木田図書館

表 2-4 唐木田図書館概要

施設名	からきだ菖蒲館
設計	新居千秋都市建築設計
所在地	東京都多摩市鶴牧 6-14
開館日	2011.4.1
延床面積	577 m ²
所蔵点数	45,462 点



写真 2-1 からきだ菖蒲館³⁹

多摩市立図書館の分館である唐木田図書館は「からきだ菖蒲館」という複合施設の1階に位置している。からきだ菖蒲館はコミュニティセンター、児童館、図書館を複合しており、施設内にカフェも併設されている。

地域性として、「過去の地形」の保存が行われている。からきだ菖蒲館が位置している敷地はかつて小さい丘であった。建築コンセプトとして、「その土地の記憶や環境を残すこと」が掲げられており、設計者のコメントとして「その場所、その場所には独特のIRO（色、雰囲気、匂い）や記憶がある。そのIROや土地の記憶を継承して建築を作ることは重要だ。この敷地は小さい丘であった。その丘で遊んで育った人々の記憶、窓から眺めて暮らした人々の思い出、それを建築として再構築した。」³⁸とある。

・真壁図書館

表 2-5 真壁伝承館概要

施設名	真壁伝承館
設計	設計組織 ADH
所在地	茨城県桜川市真壁町真壁 198
開館日	2011.9.1
延床面積	2,742 m ²
所蔵点数	17,000 点



写真 2-2 真壁伝承館

茨城県桜川市の地域図書館として提供されている真壁図書館は「真壁伝承館」という複合施設内に設置されている。真壁伝承館にはインフォメーションセンター、まかべホール、歴史資料館が併設されている。

地域性として、真壁伝承館が位置する桜川市真壁地区は重要伝統的建造物群保存地区として国から指定を受けており、歴史的な街並みが残る地域である。真壁伝承館の敷地内からは江戸時代の真壁陣屋跡などが発掘調査で確認されており、その関連資料が歴史資料館内で展示されている。建築コンセプトとして「歴史的な都市環境との調和と現代的用途の

両立」が掲げられており、設計者は「予言の劇場であると同時に記憶の劇場としても成立する建築、重要伝統的建造物群保存地区に選定された桜川市真壁の中心部に建設されたこの建物にとって、都市景観や既存の街並みとのバランスに配慮することが基本的な課題だった。」⁴⁰と発表している。

・飯能市立図書館

表 2-6 飯能市立図書館概要

施設名	飯能図書館
設計	石本建築事務所
所在地	埼玉県飯能市山手町 19-5
開館日	2013.3
延床面積	2,784m ²
所蔵点数	278,155 点



写真 2-3 飯能市立図書館

飯能市立図書館は埼玉県飯能市に位置する。旧図書館の老朽化に伴い、移転された単館の市立図書館である。館内には社会人専用の読書室、学習室があり明確なゾーニングがなされている。

地域性として、江戸時代から木材の産地であり、「西川材」として知られる杉や檜などの林業が盛んな地域である。西川材という名の由来は「江戸の西の方の川からくる木材」にあるとされ、現在でも荒川支流の入間川、高麗川の流域は西川林業地と呼ばれる⁴¹。建築コンセプトとして「地場木材の積極的な利用」を掲げており、館内では構造体の柱として西川材の杉みがき丸太が 130 本使われている。従来は図書館建築に木材を使うことは稀であるが不燃処理を施したうえで利用され、図書館の内部空間は樹木の林立する森をイメージし、丸太柱から枝が出る樹状柱が屋根を支える構造となっている⁴²。

2.5 実施概要

質問紙調査は上記対象館の15歳以上の来館者を対象として行った。開館時間から閉館時間までの来館者全員に質問紙を配布し、その場での記述回収か退館時での回収を行った（表2-7）。調査実施日時は以下のとおりである。調査員は唐木田図書館、真壁図書館では2名。飯能市立図書館では3名の調査員により実施した。唐木田図書館では対象来館者数が261名、回収数が105であり、回収率は40.2%であった。真壁図書館では対象来館者数が42名、回収数が31であり、回収率は73.8%であった。飯能市立図書館では対象来館者数が591名、回収数が362であり、回収率は61.2%であった。調査日時は以下のとおりである。

- ・唐木田図書館 2016年10月22日（土）10:00-17:00
- ・真壁図書館 2016年10月29日（土）9:00-17:00
- ・飯能市立図書館 2016年11月13日（日）9:30-18:00

表 2-7 実施概要

	来館者数	回収数	回収率
唐木田図書館	261	105	40.2%
真壁図書館	42	31	73.8%
飯能市立図書館	591	362	61.2%
合計	894	498	55.7%

第3章 分析結果

本章では質問紙調査の結果を基に統計的分析を行い、結果の解釈と仮説の検証を行う。

3.1 単純集計

質問紙調査の結果を概観し、各図書館の利用者属性と環境評価、愛着評価について結果を示す。集計にあたって、質問紙を回収したが無回答であったもの、回答を途中で放棄しているもの、すべて同じ数字をマークするなど信頼性に欠ける回答を除外して集計を行った。そのため、回収数 498 に対して、有効回答数 472 となっている。

利用者属性（表 3-1）からは、回答者全体において男性の割合は 53.4%、女性は 46.6%とやや男性が多く、年齢は 60 歳代が 27%、次いで 40 歳代が 20%と多い。職業は「会社員・公務員」がもっとも多いという結果となった。対象館ごとに見ると、10 歳～20 歳代の割合は飯能市立図書館がもっとも多く 16%であり、他の対象館に比べ倍以上の利用者が見られた。また、唐木田図書館では 50 歳代以上の割合が 63%ともっとも高く、次いで多い飯能市立図書館よりも 10 ポイント高い結果となった。職業としてはどの図書館も「会社員・公務員」がもっとも多いという結果であった。

表 3-1 利用者属性

		唐木田図書館		真壁図書館		飯能市立図書館		全体	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
性別	男性	47	48.5	9	31.0	192	56.8	248	53.4
	女性	50	51.5	20	69.0	146	43.2	216	46.6
合計		97	100	29	100	338	100	464	100
年齢	10歳代	3	3	0	0	23	7	26	6
	20歳代	4	4	1	3	29	9	34	7
	30歳代	9	9	9	30	37	11	55	12
	40歳代	18	19	6	20	71	21	95	20
	50歳代	20	21	3	10	47	14	70	15
	60歳代	31	32	9	30	84	25	124	27
	70歳代	9	9	1	3	44	13	54	12
	80歳以上	3	3	1	3	5	1	9	2
合計		97	100	30	100	340	100	467	100
職業	高校生	1	1	0	0	18	5	19	4
	大学生(大学院生)・専門学生・短大生	5	5	1	3	22	6	28	6
	パート・アルバイト	10	10	6	20	35	10	51	11
	主婦・主夫	25	26	9	30	49	14	83	18
	会社員・公務員	32	33	9	30	118	35	159	34
	自営業	9	9	1	3	21	6	31	7
	無職	13	13	4	13	62	18	79	17
	その他	2	2	0	0	15	4	17	4
合計		97	100	30	100	340	100	467	100

利用実態（表 3-2）では、図書館の利用頻度を「月に 1～2 回」と回答した利用者がもっとも多く、51.7%であり、滞在時間では「30 分以上～1 時間未満」が 37.9%を占めており、次いで「30 分未満」が 22.3%と多く、1 時間未満の利用が過半数を占めていることがわかる。来館目的の項目では資料の貸出と返却が 48.7%でもっとも多く、資料の閲覧などを目的とする利用者は 22.7%であることがわかる。真壁図書館では「子供の付き添い」として来館した利用者が対象館中でもっとも多く、親子利用の比率が高いことがわかる。

表 3-2 利用実態

		唐木田図書館		真壁図書館		飯能市立図書館		全体	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
利用頻度	年に数回	7	7.2	6	20.0	54	15.7	67	14.2
	月に1～2回	43	44.3	14	46.7	187	54.2	244	51.7
	週に1～2回	40	41.2	10	33.3	83	24.1	133	28.2
	ほぼ毎日	7	7.2	0	0.0	21	6.1	28	5.9
	合計	97	100	30	100	345	100	472	100
滞在時間	30分未満	39	40.2	9	30.0	57	16.6	105	22.3
	30分以上～1時間未満	37	38.1	12	40.0	129	37.6	178	37.9
	1時間以上～2時間未満	10	10.3	4	13.3	68	19.8	82	17.4
	2時間以上～3時間未満	9	9.3	5	16.7	37	10.8	51	10.9
	3時間以上～4時間未満	2	2.1	0	0.0	52	15.2	54	11.5
	4時間以上	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	合計	97	100	30	100	343	100	470	100
来館目的	図書などの蔵書を閲覧・視聴する	29	21.6	4	9.8	112	24.2	145	22.7
	図書などの蔵書を借りる・返す	79	59.0	21	51.2	211	45.6	311	48.7
	勉強・研究・仕事・調べ物をする	17	12.7	4	9.8	91	19.7	112	17.6
	図書館員に質問・相談する	1	0.7	0	0.0	2	0.4	3	0.5
	子どもの付き添い	6	4.5	11	26.8	26	5.6	43	6.7
	イベントへの参加	1	0.7	1	2.4	14	3.0	16	2.5
	その他	1	0.7	0	0.0	7	1.5	8	1.3
	合計	134	100	41	100	463	100	638	100

対象館ごとの環境評価と愛着評価の平均値（表 3-3）を見ると、物理的環境評価に関しては飯能市立図書館がもっとも高く 3.85 であった。社会的環境評価に関しては、真壁図書館が 3.64 でもっとも高く、唐木田図書館、飯能市立図書館が 3.51 で同程度の評価を得ている。愛着評価に関しては、唐木田図書館が最も高く 4.15 である。

下位項目に関しては、唐木田図書館では物理的環境評価で「景観（4.29）」、社会的環境評価では「人的サービス（3.84）」、愛着評価では「依存（4.41）」が高く評価されている。真壁図書館では、物理的環境評価では「サービス設備（4.22）」、社会的環境評価では「イベント（3.88）」、愛着評価では「評価（4.07）」が高く評価されている。飯能市立図書館での下位項目の評価は、物理的環境評価では「景観（4.15）」、社会的環境評価では「安心（4.05）」、愛着評価では「依存（3.74）」が高い値となっている。

対象館全体での物理的環境評価の平均値は 3.78 であり、下位項目の平均値（図 3-1）を見ると、「歴史」に対する評価が低く 3.33 であり、「調和」に対する評価が 3.98 でもっとも高い。社会的環境評価の平均値は 3.56 であり、下位項目の平均値（図 3-2）を見ると、「交流

（3.00）」がもっとも低く、「安心（3.88）」がもっとも高い。愛着評価の平均値は 3.75 であり、下位項目の平均値（図 3-3）を見ると、「継続利用（3.56）」がもっとも低く、「評価（3.99）」がもっとも高い。

また、地域性と地域性を考慮した建築の認知について、両方を認知している利用者は唐木田図書館では 32 人、真壁図書館では 23 人、飯能市立図書館では 243 人であった（表 3-4）。回答者全体での認知の割合を見ると、唐木田図書館がもっとも認知の割合が低く 32%で、もっとも割合が高かったのが真壁図書館の 76%であった（図 3-4）。

表 3-3 環境評価と愛着評価の平均値一覧

評価項目		唐木田	真壁	飯能	全体
物理的 環境	景観	4.29	3.36	4.15	3.94
	歴史	2.82	3.45	3.72	3.33
	調和	4.24	3.72	3.98	3.98
	シンボル	3.98	3.55	3.77	3.77
	サービス・設備	3.76	4.22	3.62	3.87
相加平均		3.82	3.66	3.85	3.78
社会的 環境	交流	3.23	3.12	2.65	3.00
	イベント	3.15	3.88	3.86	3.63
	人的サービス	3.84	3.80	3.49	3.71
	安心	3.83	3.75	4.05	3.88
相加平均		3.51	3.64	3.51	3.56
愛着	継続利用	4.02	3.30	3.35	3.56
	所属意識	3.91	3.40	3.44	3.59
	依存	4.41	3.44	3.74	3.87
	評価	4.25	4.07	3.64	3.99
相加平均		4.15	3.55	3.54	3.75

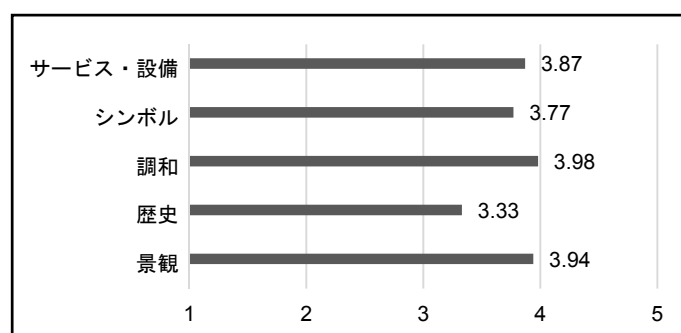


図 3-1 物理的環境評価

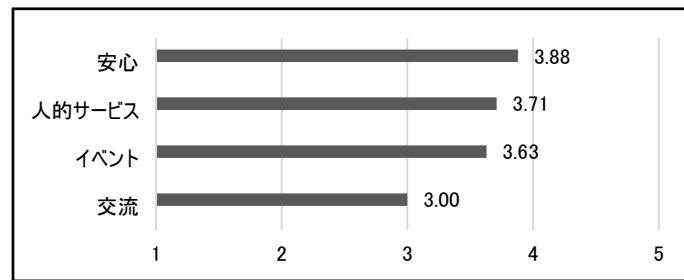


図 3-2 社会的環境評価

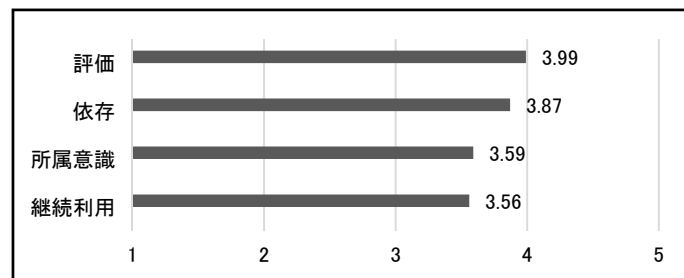


図 3-3 愛着評価

表 3-4 地域性を考慮した建築の認知

	両方認知	地域性のみ	コンセプトのみ	不認知	合計
唐木田	32	17	4	45	98
真壁	23	5	0	2	30
飯能	243	57	8	34	342
合計	298	79	12	81	470

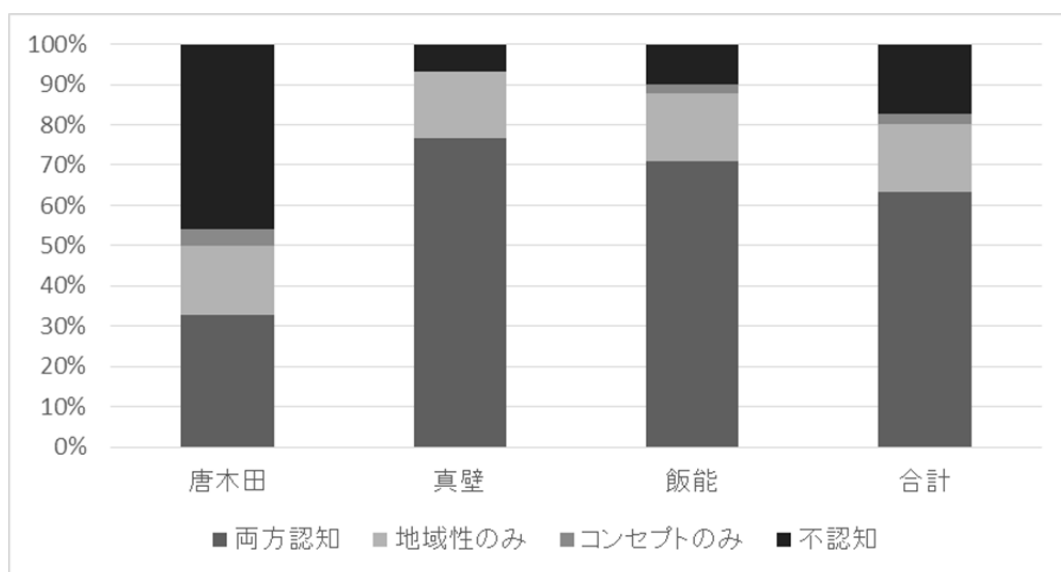


図 3-4 認知の割合

3.2 尺度の関する信頼性の検討

複数の項目からひとつの変数を導出する尺度の設定を目的としているため、尺度の妥当性について検討するために信頼性係数（Cronbach's α ）を算出する。

尺度に関する信頼性とは、その尺度によって測定することを想定している属性に対して、どの程度の一貫性をもって測定できているかということである⁴³。信頼性の要素として内的整合性が挙げられ、内的整合性は尺度内のすべての項目が同じ特性を測定しているかどうかの度合いであるとされ、内的整合性の推定には信頼性係数 α が望ましいとされている。

そこで本研究で設定した尺度である、物理的環境評価、社会的環境評価、愛着評価のそれぞれにおいて信頼性係数 α を算出した（表 3-5 信頼性係数①）。それぞれの信頼性係数 α は、「物理的環境評価（0.753）」、「社会的環境評価（0.701）」、「愛着評価（0.797）」となった。広く利用される尺度では信頼性係数の値は 0.70～0.80 以上が必要であるとされているため、設定した各尺度内の内的整合性がある程度、高いと判断できる。よって本研究で設定した尺度は一定の汎用性があるといえ、（仮説 1）として設定した「愛着尺度は図書館においても応用可能である」は支持されたといえる。

しかし、「項目が削除された場合の信頼性係数 α 」を考慮すると、社会的環境評価の項目である「交流 1：図書館を利用するときは一人きりでいたい」と愛着評価の項目である「継続利用 3：今度は他の図書館を利用しようと思う」において、これらの項目を尺度から削除することで内的整合性の向上が見込まれた。これら 2 項目は逆転項目であり、適切に逆転項目処理を行ったが、内的整合性の低下の要因となっていた。そこで「交流 1」と「継続利用 3」の項目を削除し、信頼性係数 α を算出すると「社会的環境評価（0.764）」、「愛着評価（0.829）」となり、社会的環境評価において 0.063 の向上と、愛着評価において、0.032 の向上が見られた（表 3-5 信頼性係数②）。

よって、以降の分析では社会的環境評価の項目である「交流 1：図書館を利用するときは一人きりでいたい」と、愛着評価の項目である「継続利用 3：今度は他の図書館を利用しようと思う」を除いて、検討を行う。

表 3-5 信頼性係数（Cronbach's α ）

	信頼性係数①	項目	信頼性係数②
物理的環境評価	0.753	削除	0.753
社会的環境評価	0.701	後	0.764
愛着評価	0.797		0.829

3.3 愛着の形成要因の検討

環境評価と愛着評価に関する尺度の妥当性が示されたため、次にそれぞれの尺度の関係性について、相関分析を用いて検証する。図書館への愛着と関連性を検証するために、愛着評価の項目の相加平均である合成変数の「愛着」を用い、環境評価の項目はそれぞれ、物理環境の「景観」、「歴史」、「調和」、「シンボル」、「サービス・設備」を用い、社会環境の「交流」、「イベント」、「人的サービス」、「安心」を用いて分析を行った（表 3-6）。

分析の結果、「愛着」と「歴史」の関係性において、有意な値が示されなかったが、そのほかの項目間の関係性は、すべて正の相関関係が有意確率 1% の水準で示された。この結果から、社会的環境評価と物理的環境評価は、すべての項目において正の相関関係が成り立つといえる。特に、「景観」と「安心」は相関係数が.654 と高く、次に「調和」と「安心」の.500 が高い関係性を示している。

愛着と物理的環境評価、社会的環境評価との関係性においても「歴史」の項目を除き、有意な結果であり、正の相関関係が愛着と環境評価との間でも見込まれることを示している。また、項目ごとの相関の強さとしては「調和」との相関係数が.583 ともっとも高く、「景観」との.519 が次いで高い結果となった。このことから、愛着の形成において、社会的環境評価よりも物理的環境評価の方が強い影響を示す可能性が示唆された。「歴史」の項目が愛着と相関がなかった原因としては、調査対象館は 2011 年竣工と 2013 年に竣工した図書館であるため、利用者にとって実感値として歴史的だと感じるかどうかよりも、築年が浅いため歴史性は薄いと判断された可能性が考えられる。真壁図書館では歴史的な街並みの継承が行われていたが、「3.1 単純集計」の結果からも歴史に関する評価は 3.55 と中央値に近い結果となっている。

表 3-6 相関分析

		1	2	3	4	5	6	7	8	9
	1. 愛着									
物理的 環境 評価	2. 景観	.519**								
	3. 歴史	.021	.186**							
	4. 調和	.583**	.559**	.168**						
	5. シンボル	.371**	.324**	.250**	.344**					
	6. サービス・設備	.457**	.129**	.120**	.273**	.280**				
社会的 環境 評価	7. 交流	.266**	.238**	.239**	.334**	.206**	.358**			
	8. イベント	.284**	.257**	.476**	.290**	.267**	.312**	.447**		
	9. 人的サービス	.490**	.341**	.171**	.381**	.326**	.387**	.404**	.341**	
	10. 安心	.432**	.654**	.320**	.500**	.255**	.201**	.365**	.439**	.350**

**．相関係数は 1% 水準で有意（両側）です。

3.4 愛着の形成要因の重みづけ

相関分析によって、それぞれの尺度間での正の相関関係があることが示された。よってここでは重回帰分析を用いて、愛着評価への影響の度合いを算出する。相関分析と同様に、図書館への愛着評価尺度の各項目の相加平均を「愛着」として従属変数とした。独立変数には、それぞれの環境評価尺度の下位項目を同様に用いた（表 3-7）。

重回帰分析の結果、回帰式全体では 1%水準で有意であり、決定係数は.56 であった。また、「景観」、「歴史」、「調和」、「サービス・設備」、「人的サービス」において 1%水準で有意であり、「シンボル」、「交流」は 5%水準で有意な影響を示した。これにより愛着とそれぞれの環境評価との間に影響関係が示されたといえ、（仮説 2）の「物理的環境評価と社会的環境評価は図書館への愛着に対して影響関係を持つ」は検証されたといえる。

また、前提となる（仮説 2）が検証されたため、続く（仮説 3）の「図書館の継続利用年数は愛着に対して影響関係を持つ」と（仮説 4）の「地域性を考慮した建築であることの認知は愛着に対して影響関係を持つ」について検証を行った。ふたつの仮説に関する要素の「利用年数」、「居住年数」、「地域性の認知」、「建築コンセプトの認知」を独立変数として採用して新たに重回帰分析を行った（表 3-8）。

その結果、回帰式は 1%水準で有意であり、決定係数は.56 と説明力に変化はなかった。環境評価に関する項目は前回の分析と同様の結果を示しており、「イベント」、「安心」の 2 項目において有意な結果が見られなかった。標準化回帰係数を見ると、愛着への影響は社会的環境評価よりも物理的環境評価の方が大きいことが示されており、相関分析の結果を支持するものである。

「イベント」と「安心」は有意ではなかったが、物理的環境評価と社会的環境評価の枠組みは既往研究のモデルを採用しているため、次章での関係性モデルの検討にも要素として採用し、より詳細な関係性の検討を行う。（仮説 3）、（仮説 4）に基づく項目では有意な結果が得られなかったため、一度分析対象から除外して検討を進める。

表 3-7 環境評価が愛着に与える影響

従属変数	独立変数									決定係数
	物理的環境評価					社会的環境評価				
	a. 景観	b. 歴史	c. 調和	d. シンボル	e. サービス・設備	f. 交流	g. イベント	h. 人的サービス	i. 安心	
	愛着	.231**	-.189**	.289**	.094*	.269**	-.083*	.071	.191**	

表 3-8 環境評価と仮説要素が愛着に与える影響

従属変数	独立変数													決定係数
	物理的環境評価					社会的環境評価				仮説要素				
	a.	b.	c.	d.	e.	f.	g.	h.	i.	地域性	コンセプト	居住年数	利用年数	
	愛着	.228**	-.165**	.309**	.086*	.255**	-.078*	.078	.208**	.034	-.003	.076	.023	

第4章 共分散構造モデルの推定

4.1 愛着形成モデルの検討

愛着の形成モデルについて共分散構造分析を用いて検討した。愛着を潜在変数とし、物理的環境評価と社会的環境をそれぞれの項目の相加平均からなる合成変数を観測変数として共分散構造モデルを作成した（図 4-1）。

共分散構造分析では、モデルの適合度を判断するための指標が多く存在するが、本研究では GFI、AGFI、CFI、RMSEA を用いる。適合度の解釈については、GFI、AGFI、CFI が 0.90 以上かつ $GFI > AGFI$ であり、RMSEA は 0.05 以下の値を示すモデルは適合度が充分高いとされている。

環境評価が愛着へ与える影響について、共分散構造分析を用いてモデル化した。モデルの適合度としては $GFI=0.994$ 、 $AGFI=0.983$ 、 $CFI=1.000$ 、 $RMSEA=0.000$ となり、いずれも適合度の基準を満たした。またパス係数の有意確率もすべてのパスにおいて 1%水準で有意であった。よってこの愛着形成モデルは信頼性の高いモデルであるといえる。

パス係数を見ると、物理的環境評価から愛着へのパス係数が.52、社会的環境評価から愛着へのパス係数が.24 となっており、図書館への愛着に対する影響は物理的環境評価の方が大きいことを示している。相関分析、重回帰分析の結果を見ても、愛着への影響は物理的環境評価の方が高いことが予想されていたため、この傾向は一貫性があり信頼できる傾向であるといえる。

また、愛着の評価尺度の項目へのパスを見ると継続利用へのパス係数のみ低いことがわかる。愛着が利用者に与える影響として検討された頻度へのパスは.16 であり、影響が確認された。

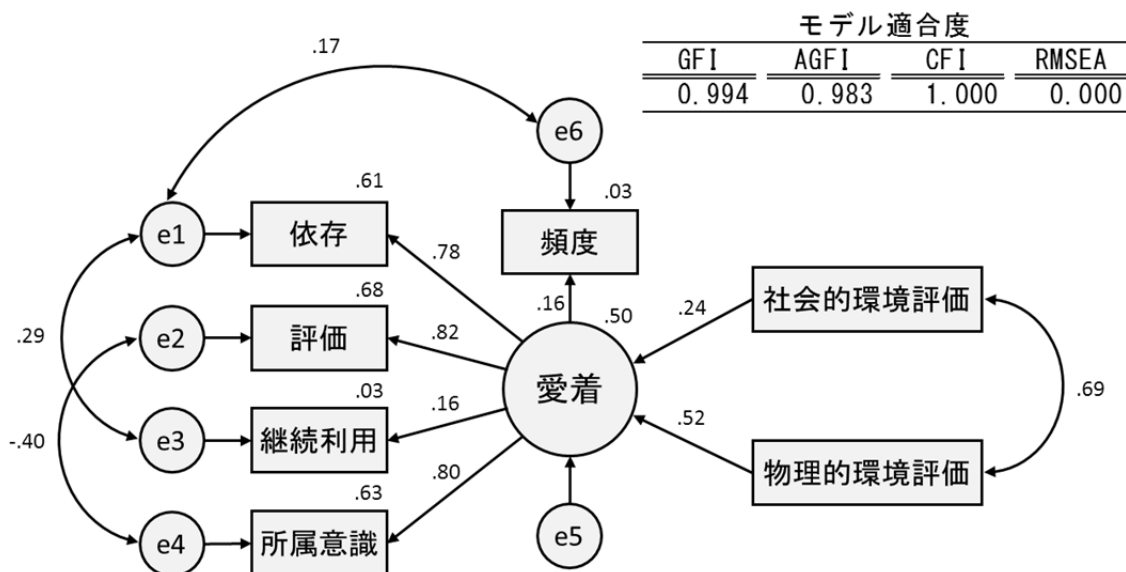


図 4-1 環境評価が愛着へ与える影響

4.2 認知による影響の検討

「3.4 愛着形成要因の重みづけ」での重回帰分析の結果では「地域性の認知」と「建築コンセプトの認知」について有意な結果が得られなかったが、これらの認知は独立的に作用するのではなく交互作用についても考慮する必要があるため、分散分析による検討を行った。「建築コンセプトの認知」は、地域性を考慮した建築が行われており、かつそこで表現されている地域性について情緒的結びつきを感じると考えられるためである。

そこで「地域性の認知」と「建築コンセプトの認知」の物理的・社会的環境評価、愛着評価への交互作用を検証した。物理的環境評価への交互作用（表4-1）では、1%水準でモデルが有意であることが示されたが、「地域性*コンセプト」の交互作用では有意な結果が得られなかった。しかし、コンセプトの認知による主効果が5%水準で有意であると示された。また、社会的環境評価への交互作用（表4-2）では、1%水準でモデルが有意であることが示されたが、「地域性*コンセプト」の交互作用は得られなかった。しかし、物理的環境評価の場合と同様に、コンセプトの認知による主効果が1%水準で有意であると示された。愛着評価への交互作用（表4-3）では、5%水準でモデルが有意であったが、環境評価と同様に交互作用については認められず、コンセプトの主効果も得られなかった。

以上の分析から、地域性のコンセプトの認知による交互作用は検証されなかったが、「建築コンセプトの認知」が物理的・社会的環境評価において主効果があること示された。愛着評価への影響は示されなかったが、関係性について検討の余地があるため「地域性の認知」と「コンセプトの認知」を採用して共分散構造分析を行う。

表 4-1 地域性・コンセプト認知による物理環境評価の変化

従属変数: 物理的環境評価					
ソース	タイプⅢ平方和	df	平均平方	F	有意確率
修正モデル	2.845 ^a	3	.948	5.144	.002
切片	1946.283	1	1946.283	10559.108	.000
地域性	.178	1	.178	.967	.326
コンセプト	1.104	1	1.104	5.989	.015
地域性 * コンセプト	.022	1	.022	.121	.728
エラー	84.604	459	.184		
合計	6458.273	463			
修正総和	87.449	462			

a. R2 乗 = .033 (調整済み R2 乗 = .026)

表 4-2 地域性・コンセプト認知による社会環境評価の変化

従属変数: 社会的環境評価					
ソース	タイプⅢ平方和	df	平均平方	F	有意確率
修正モデル	7.907 ^a	3	2.636	10.633	.000
切片	1801.796	1	1801.796	7268.861	.000
地域性	.050	1	.050	.203	.653
コンセプト	2.600	1	2.600	10.490	.001
地域性 * コンセプト	.064	1	.064	.260	.611
エラー	113.776	459	.248		
合計	6122.703	463			
修正総和	121.683	462			

a. R2 乗 = .065 (調整済み R2 乗 = .059)

表 4-3 地域性・コンセプト認知による愛着評価の変化

従属変数: 愛着評価					
ソース	タイプⅢ平方和	df	平均平方	F	有意確率
修正モデル	2.301 ^a	3	0.767	3.180	.024
切片	1922.326	1	1922.326	7971.111	.000
地域性	.680	1	.680	2.820	.094
コンセプト	.003	1	0.003	0.014	.905
地域性 * コンセプト	.377	1	.377	1.563	.212
エラー	110.693	459	.241		
合計	6327.082	463			
修正総和	112.994	462			

a. R2 乗 = .020 (調整済み R2 乗 = .014)

4.3 認知を考慮したモデルの検討

「4.1 愛着形成モデルの検討」で示した愛着形成モデルに対して「4.2 に位置による影響の検討」で行った分散分析の結果を考慮して、共分散構造モデルの作成を行った。「認知」を潜在変数とし、「地域性の認知」と「建築コンセプトの認知」を観測変数として採用した（図 4-2）。

モデルの適合度としては $GFI=0.983$ 、 $AGFI=0.960$ 、 $CFI=0.986$ 、 $RMSEA=0.046$ となり、いずれも適合度の基準を満たしたが、既存のモデルよりもわずかに適合度が低下した。パス係数の有意確率もすべてのパスにおいて 1%水準で有意であった。

認知からのパス係数をみると、物理的環境評価に対して-.25、社会的環境評価に対して-.17であり、影響があることは認められたが負の関係性であることがわかる。（仮説 3）の「図書館の継続利用年数は愛着に対して影響関係を持つ」を検証するために、観測変数である「継続利用年数」の採用を探索的に検討したが、モデル適合度が水準を満たさず、モデルに採用することができなかった。よって（仮説 3）は棄却された。しかし、愛着に対するパス係数は.16 と正の影響を与えていることが明らかとなった。よって（仮説 4）は検証された。

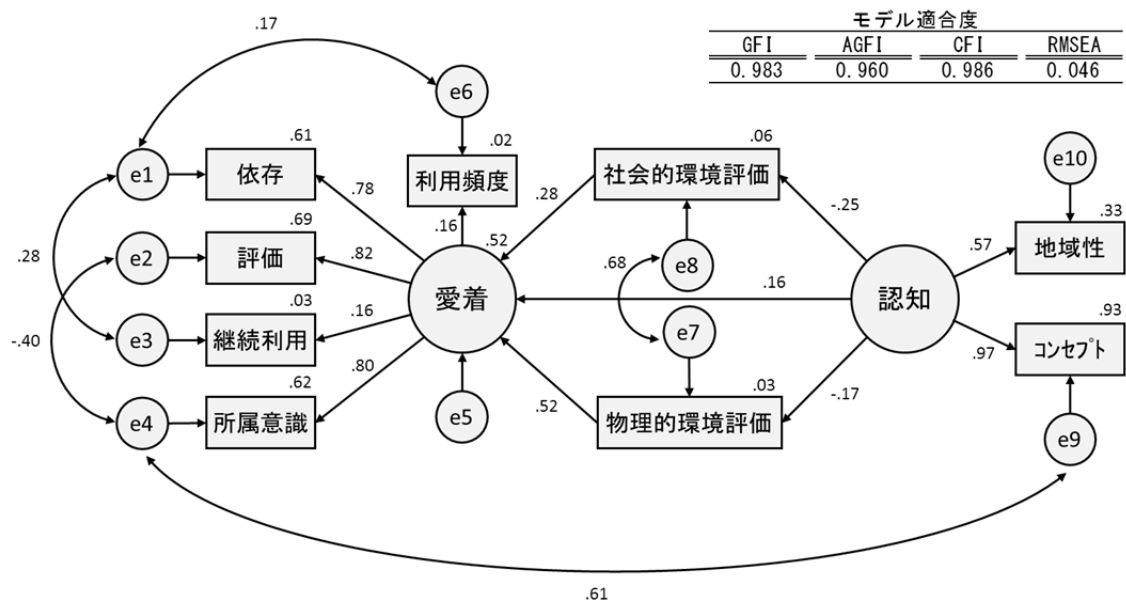


図 4-2 認知を考慮した愛着形成モデル

第5章 考察

5.1 尺度の妥当性と愛着形成モデル

分析の結果、尺度の妥当性については信頼性係数 α による内的整合性の検証により示された。「物理的環境評価 (0.753)」、「社会的環境評価 (0.764)」、「愛着評価 (0.829)」と信頼性係数 α の値が非常に良いとまでは言えないが、「図書館への愛着」に関する初期的な尺度としては有用性があるといえ、(仮説 1) は検証された。

共分散構造分析による愛着の形成モデルを作成した。このモデルは適合度の基準を満たしており、すべてのパスが 1%水準で有意であったため、愛着の形成モデルは「物理的環境評価」と「社会的環境評価」と「図書館への愛着」の影響関係を示したといえ、(仮説 2) も検証された。しかし、図書館の「継続利用年数」が愛着に対して影響関係を示すことができなかったため(仮説 3) は棄却された。

愛着の形成に影響を与える要因として物理的環境評価がもっとも密接に関係しており、次いで社会的環境評価、地域性と建築コンセプトへの認知が影響を与えていることが明らかになった。また、愛着の高さが図書館の「利用頻度」に影響を与えることが明らかになった。継続利用年数と愛着の形成との関係が示されなかった。地域に対する愛着においても「居住年数が長くても、地域に対する愛着が形成されず、地域での経験の質が愛着の形成に大きな影響を与える」⁴⁵とする研究もあり、地域への愛着よりも図書館への愛着ではこの傾向が強かったと推測できる。また、本研究での共分散構造分析は 2 時点調査ではなく、因果関係とまでは断定できないが、関係性が示されたことで今後の研究において十分な検討がなされることを期待する。

愛着形成モデルに関しては既存の「地域へ愛着の形成モデル」⁴⁴とは異なる特徴がみられた。地域への愛着では、愛着への影響が物理的環境評価よりも社会的環境評価の方が高いとされているが、図書館への愛着形成モデルでは物理的環境評価の影響が高い結果となった。これは図書館が地域という概念と比べて建築物に起因する感情が大きいからだと考えられる。地域における物理的環境のうち、その地域で生活する上で密接にかかわってくるのは図書館では「サービス・設備」と解釈した「医療施設」が考えられるが、頻繁に利用するわけでもなく、そのほかの物理的環境評価の項目も日常的に意識することは難しいといえる。図書館における物理的環境では「サービス・設備」が利用者にとって意識しやすい項目であるのはもちろんだが、「景観」や「調和」といった項目も感じ取りやすく、「地域」といった漠然とした範囲でないため感覚的に理解しやすく、愛着の形成に影響を与える要因となったと考えられる。重回帰分析の結果を見ても、地域への愛着の場合と比べ、景観や調和の標準化回帰係数は倍以上の高い値となっている。

この構図は社会的環境評価においては全く逆であるとも考えられる。地域への愛着形成では、日常生活において住民同士の交流や、住民の人柄、治安に関して住民は感じる機会が多く、これらの項目の評価が地域への愛着の形成につながる事が考えられる。一方、図書館はこれまで「貸出型」、「滞在型」、「課題解決型」と変遷してきた過程では利用者同士

での交流や職員との社会的関係性は重視されてこなかった。利用者の意識としても、「図書館では静かにしなくてははいけない」というものが根深く、「場所としての図書館」として議論されるような第3の場で期待される双方向的なコミュニケーションや、常連同士でのコミュニティ形成は浸透していないと考えられる。重回帰分析の結果を見ても、地域への愛着形成における社会的環境評価の項目はすべて有意な結果が引地らの既往研究⁴⁶によって示されているが、図書館への愛着において、社会的環境評価では有意であった項目は「交流」と「人的サービス」に2項目のみである。「人的サービス」はこれまでの図書館研究で主に取り上げられ、改善や効率化が検討されてきた項目といえる。「交流」は有意であるが、標準化回帰係数が-0.79と不の影響を示しており、図書館において会話するといった習慣が根付いていない現状が示唆される。

しかし、社会的環境評価の標準化回帰係数が低いからと言って、社会的環境の改善がまったく愛着の形成に作用しないわけではない。今後は交流やイベントに着目し、利用者を巻き込んで社会的環境を向上させる施策を検討する必要がある。

5.2 地域性、建築コンセプトの認知による愛着への影響

図書館への愛着に対する地域性、建築コンセプトの認知の影響が共分散構造モデルによって検証された。よって（仮説4）の「地域性を考慮した建築であることの認知は愛着に対して影響関係を持つ」を検証されたといえる。しかし、物理的環境評価や社会的環境評価ほどに強い関係性を示すことはできなかった。

認知を考慮し、改良したモデルでは適合度は基準値を超えてモデルとしては成立するが、考慮前の愛着形成モデルの方がわずかではあるが適合度が高い。愛着を説明するモデルとして説明変数の追加を行ったのにもかかわらず、モデル自体の改善にはつながらなかったといえる。この原因について、調査設計時の問題が考えられる。愛着と環境評価尺度では5件法を用いて質問項目を設定したが、認知に関してはその有無を確認するのみにとどまっていた。認知の程度にも個人差があることが考えられ、複数の質問項目と5件法を用いた質問項目を設定し、認知に関する回答の精度を高めることで、愛着形成モデルの改善につながると考えられる。

しかし、認知による影響を強く示すには至らなかったが、愛着形成モデルの枠組みは図書館への愛着に対する研究の成果であると考えられる。引地らの地域への愛着形成モデル⁴⁷では、多くの既往研究において影響が示唆されていた「居住年数」の愛着へのパス係数は0.19であり、図書館への愛着形成モデルにおける「認知」のパス係数0.16よりわずかに高い程度である。加えて、要素として検討の余地が多く残っており今後も継続的に、地域性を考慮した建築が愛着へ与える影響の可能性を探ることが必要だと考えられる。

そこで今後の研究の視点として、地域性を考慮した建築の類型による影響の比較が考えられる。今回、調査対象とした図書館はそれぞれ「過去の地形の継承」、「伝統的な街並みの再現」、「地場建材の積極的活用」がコンセプトとしてあり、地形・街並み・建材に分けら

れる。これらの地域性のうちどのような地域性がより愛着の形成に影響を与える要因となるかは検討する余地があるといえる。

5.3 図書館への愛着の意義

環境評価の単純集計から、社会的環境に対する評価は物理的評価に比べ低く、ほぼ中央値と等しい 3.56 という結果であった。これは既往研究⁴⁸が述べているように、図書館において社会的な文脈での検討がまだ進んでいないことが原因であると考えられ、利用者の評価が芳しくないと解釈できる。社会的評価について項目ごとの値を見ると、安心は 3.88 と高いが、交流の項目は 3.00 と中央値よりも低い値となっている。

この結果に関する解釈は 2 つの可能性が考えられる。ひとつは現状の図書館において交流するための仕組みづくりや、施策の検討が充分ではないことに原因があるという解釈と、もうひとつは利用者が図書館に対するニーズとして交流を求めているという解釈である。単純集計の利用目的の項目を見ても、利用者の目的はあくまでも「図書などの蔵書を借りる・返す (48.7%)」であり、貸出型図書館への後退が危惧される現状にも合致する。その場合、今後の情報技術の発展や物流技術の進歩により、図書館の都市機能としての価値は低下し、存続意義を失うことも考えられる。

そこで「5.1 尺度の妥当性と愛着形成モデル」でも述べたように図書館は今後、社会的環境を充実させ、社会的な意義を拡張する必要がある。その手段として地域社会の「場」としての可能性を検討が挙げられる。「1.3.3 社会関係資本と愛着の関連」でまとめた「社会関係資本と愛着の関連」に関する既往研究で述べたように「愛着と社会関係資本が協力意向の形成へ与える影響」や「社会関係資本と愛着の階層性」が示されており、図書館における愛着の効果としても協力意向の形成や社会関係資本の形成の可能性は高いといえる。本研究では時系列を考慮した因果関係の検証には至らなかったが、これまでの成果と既往研究での知見を考慮すると、「愛着」と「社会関係資本」、「協力意向」はある程度、循環的に利用者に作用していると考えられる。

つまり、三つの要素のどれかを高めることで、現状の「貸出型」を求める利用者と、社会的な「場」の形成を目指す図書館とのギャップを狭めることにつながると解釈できる。よって図書館に対する客観的指標として、図書館への愛着は意義は大きい。

今後は愛着形成モデルで示された評価尺度のさらなる精緻化と物理的環境と社会的環境の両方の利用者評価を高めるための施策を検討することが求められる。また、図書館の建築計画として愛着の形成に影響を与えることが示された、「地域性を考慮した建築」の表現の可能性を意匠や材質などに着目し、より利用者の愛着につながるものとするための検討も行う必要がある。

第6章 結論

本研究では、図書館への愛着と物理的・社会的環境評価尺度を設定し、それらの関係性について論じることで、愛着の形成要因を明らかにし、建築計画上の示唆とすることを目的として質問紙調査を行い、その結果をもとに統計的分析を行った。その結果として以下の成果と知見を得られた。

1) 図書館への愛着の応用

図書館に対して愛着の概念を応用することができた。図書館への愛着は、「依存」、「評価」、「継続利用」、「所属意識」によって計測することができる。尺度の妥当性として内的整合性による検証を行い、妥当性が確認できた。

2) 愛着の形成モデル

図書館における物理的・社会的環境の評価が高い利用者ほど図書館への愛着は高くなることが明らかになった。共分散構造分析により愛着の形成モデルを作成することができた。それぞれの尺度間の関係性として、環境評価の愛着への影響の大きさは社会的環境評価よりも物理的環境評価の方が大きくなることが示された。

3) 愛着の形成に影響を与える既存要因の検証

住宅や地域への愛着で一般的に影響があると考えられてきた「居住年数」の影響は図書館への愛着では観測できなかった。居住年数と同様の解釈ができる「図書館の継続利用年数」による影響も分析結果からは見られなかった。

4) 利用行動に対する愛着の影響

愛着の大きさが利用者行動に与える影響としては、利用頻度によるものが示され、愛着によって頻繁な利用が促進されることの可能性が示された。愛着による滞在時間への影響は観測されなかった。

5) 地域性を考慮した建築と愛着の影響

地域性を考慮した建築がなされていることが利用者に認知されることにより、愛着の形成に影響を与えることが示唆された。

図書館に愛着の概念を応用したことにより、客観的な指標を得ることができた。これにより、愛着に影響を示す物理的環境評価項目、社会的環境評価項目について改善を目指すことで利用者の図書館への愛着を高めることができる。

また、図書館建築学において愛着を形成する要因として「地域性を考慮した建築」の可能性を示すことができた。これらの尺度と知見により、図書館の建築計画から「利用者の生活の中の図書館」を検討することができる。

今後は住宅や地域に対する愛着で検討されている協力意向について、実際に図書館ではどのような効果が得られるのかを明らかにしていくことが課題である。

謝辞

本研究の実施にあたり、多くの方にご協力をいただきました。お忙しい中、時間を割いて質問紙調査にご協力くださりました、唐木田図書館、真壁図書館、飯能市立図書館の職員の皆様と、図書館来館者の皆様にこの場を借りて厚くお礼を申し上げます。

参考文献

1. 植松 貞夫. 滞在型図書館(「施設」のなかの住居)(「施設」の意味を問う). 建築雑誌. 1995, vol. 110, no. 1370, p. 44-45.
2. 文部科学省, 公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準. 2001.
3. 文部科学省, 「これからの図書館の在り方検討協力者会議」:これまでの議論の概要. 2006.
4. 植松 貞夫. デジタル情報時代の図書館建築: その可能性と課題(デジタル時代の図書館建築とその施設・設備). 情報の科学と技術. 2013, vol. 63, no. 6, p. 216-220.
5. レイ オルデンバーク, 忠平美幸訳. サードプレイス: コミュニティの核になる「とびきり居心地よい場所」. みすず書房, 2013.
6. Oldenburg Ray. The great good place: cafés, coffee shops, bookstores, bars, hair salons, and other hangouts at the heart of a community. Marlowe, 1999.
7. Robert D Putnam. Bowling alone: the collapse and revival of American community. Simon & Schuster, 2000,
8. Robert D. Putnam, Lewis M. Feldstein, Don Cohen. Better together: restoring the American community. Simon & Schuster Paperbacks, 2004,
9. 安福 賢太郎, 高田 光雄, 森重 幸子. 5342 理論的検討を通じた住宅への愛着形成過程のモデル化(愛着・居場所,建築計画,2013 年度日本建築学会大会(北海道)学術講演会・建築デザイン発表会). 学術講演梗概集. 2013, vol. 2013, p. 707-708.
10. 川本 清美. 地域のソーシャル・キャピタル構造を考慮した路面電車利用者の意識構造分析. 土木学会論文集 G (環境). 2013, vol. 69, no. 6, p. II_85-II_92.
11. 長谷 起世子. 地域への定住と愛着心からみるまちづくりに関する研究: A 市 C 地区における住民の意識分析. 関西福祉大学社会福祉学部研究紀要. 2013, vol. 17, no. 1, p. 51-60.
12. John Bowlby: 母子関係の理論 1 愛着行動, 岩崎学術出版, 1976-4.
13. Irwin Altman, Setha M. Low. Place Attachment. Plenum Press, 1992,
14. 前掲 (9
15. Wiegand Wayne A.. To Reposition a Research Agenda: What American Studies Can Teach the Lis Community about the Library in the Life of the User. The Library Quarterly. 2003, vol. 73, no. 4, p. 369-382.
16. 根本 彰. 「場所としての図書館」再考(特集 場所としての図書館). 現代の図書

- 館. 2013, vol. 51, no. 2, p. 51-60.
17. 久野 和子. 新しい批判的図書館研究としての「場としての図書館」("Library as Place")研究: その方法論を中心にした考察. 図書館界. 2014, vol. 66, no. 4, p. 268-285.
 18. 同上
 19. 根本 彰. 動向レビュー 「場所としての図書館」をめぐる議論. カレントアウェアネス. 2005, no. 286, p. 21-25.
 20. 中井 孝幸. 利用行動からみた「場」としての図書館に求められる建築的な役割(デジタル時代の図書館建築とその施設・設備). 情報の科学と技術. 2013, vol. 63, no. 6, p. 228-234.
 21. 牧野 俊弥, 松本 彩伽, 中井 孝幸. 421 ヤングアダルト世代の居場所としての図書館に関する研究(4.建築計画). 東海支部研究報告集. 2014, no. 52, p. 529-532.
 22. 秋野 崇大, 中井 孝幸. 5101 利用者の相対的な選択利用行動からみた居場所としての図書館計画に関する研究(図書館,建築計画,2012 年度大会(東海)学術講演会・建築デザイン発表会). 学術講演梗概集. 2012, vol. 2012, p. 243-244.
 23. 畠中 雅英, 福田 由美子, 森下 祐司. 515 コミュニティ形成の場としての図書館の評価に関する研究: 24 時間開館図書館の有効性の考察(建築計画). 日本建築学会中国支部研究報告集. 2003, vol. 26, p. 653-656.
 24. 安福 賢太郎, 高田 光雄. 5678 住宅の愛着に関する考察: アタッチメント、アイデンティティの概念の住宅への適用(住宅の心理・評価,建築計画,2012 年度大会(東海)学術講演会・建築デザイン発表会). 学術講演梗概集. 2012, vol. 2012, p. 1397-1398.
 25. 前掲 (9)
 26. 吉岡 むつみ, 松原 斎樹. 4003 住まいへの愛着の形成過程における自然環境と五感の影響(環境). 日本建築学会近畿支部研究報告集.環境系. 2010, no. 50, p. 9-12.
 27. 引地 博之, 青木 俊明, 大淵 憲一. 地域に対する愛着の形成機構ー物理的環境と社会的環境の影響ー. 土木学会論文集D. 2009, vol. 65, no. 2, p. 101-110.
 28. 加藤 悠介. インタビュー調査にもとづく近隣環境における高齢者の愛着場面に関する研究. 日本建築学会計画系論文集. 2013, vol. 78, no. 687, p. 997-1002.
 29. 前掲 (11)
 30. 小林 重人, 山田 広明. サードプレイスにおける経験がもたらす地域愛着と協力意向の形成. 地域活性研究. 2015, vol. 6, p. 1-10.
 31. 鈴木 春菜, 藤井 聡. 地域愛着が地域への協力行動に及ぼす影響に関する研究. 土木計画学研究・論文集. 2008, vol. 25, p. 357-362.
 32. 上野 眞也. ソーシャルキャピタルにおけるコミュニティ効果. 熊本大学政策研究. 2011, vol. 2, p. 23-32.

33. 前掲 (27)
34. 前掲 (17)
35. 同上
36. Brown Graham, Brown Barbara, Perkins Douglas D.. Place attachment in a revitalizing neighborhood: Individual and block levels of analysis. Journal of Environmental Psychology. 2003, vol. 23, no. 3, p. 259-271.
37. 前掲 (27)
38. 新居千秋都市建築設計. からきだ菖蒲館ホームページ. 2011, <http://www.karakida.org/about/>, (参照 2016/12)
39. 新居千秋都市建築設計, 新居千秋都市建築設計ホームページ, <http://www.chiaki-arai.com/works/karakida/karakida.htm>, (参照 2016/12) .
40. 設計組織 ADH. ADH ホームページ. 1990, <http://adh-architects.jp/works.html>, (参照 2016/12) .
41. 飯能市. 飯能を知る、西川材を知る. 2013, <http://www.city.hanno.saitama.jp/0000000358.html>, (参照 2016/12) .
42. 石本建築事務所. 石本建築事務所ホームページ. 1985, <http://www.ishimoto.co.jp/products/2102/>, (参照 2016/12) .
43. Denise F. Polit Bernadette. Nursing research : principles and methods. Lippincott, 1978.
44. 前掲 (27)
45. 谷口 綾子, 今井 唯, 原文宏, 石田 東生. 観光地における多様な主体の地域愛着の規定因に関する研究—ニセコ・倶知安地域を事例として. 土木学会論文集 D3 (土木計画学) . 2012, vol. 68, no. 5, p. I_551-I_562.
46. 前掲 (27)
47. 同上
48. 前掲 (17)

付録

表 1. 雑誌「新建築」掲載図書館一覧

No.	掲載年月日	施設名	地域性の有無	所在地
1	2015.5	小平市立仲町公民館・仲町図書館		東京都小平市 仲町145
2	2014.7	戸畑図書館		福岡県北九州市 戸畑区新池1丁目1-1
3	2013.7	武雄市図書館		佐賀県武雄市 武雄町大字武雄5304番地1
4	2013.6	飯能図書館	○	埼玉県飯能市 山手町19番5号
5	2013.3	尾張一宮駅前ビル		愛知県一宮市栄3丁目1-2
6	2013.12	豊後高田市立図書館	○	大分県豊後高田市御玉101-1
7	2013.10	ホルトホール大分		大分県大分市金池南1丁目5-1
8	2013.10	新潟県新潟市江南区文化会館		新潟県新潟市江南区茅野山3丁目1-14
9	2013.1	山梨県立図書館		山梨県甲府市北口2丁目8-1
10	2012.9	オガールプラザ		岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前2-3-3
11	2012.7	由利本荘市文化交流館カダーレ		秋田県由利本荘市東町15
12	2012.3	日比谷図書文化館		東京都千代田区日比谷公園1-4
13	2012.12	小布施町立図書館 まちとしょテラソ		長野県上高井郡 小布施町小布施1491-2
14	2012.12	えんぱーく塩尻市市民交流センター		長野県塩尻市大門一番町12-2
15	2011.9	白河市立図書館		福島県白河市道場小路96-5
16	2011.7	からきだ菖蒲館	○	東京都多摩市鶴牧6丁目14
17	2011.7	金沢海みらい図書館		石川県金沢市寺中町イ1-1
18	2011.4	清瀬けやきホール		東京都清瀬市元町1丁目6-6
19	2011.12	港区立高輪子供中高生プラザ		東京都港区高輪1丁目4-35
20	2011.11	武蔵野プレイス		東京都武蔵野市 境南町2丁目3-18
21	2011.10	真壁伝承館	○	茨城県桜川市真壁町真壁198
22	2010.10	村山市総合文化複合施設		山形県村山市楯岡五日町14-20
23	2009.5	大船渡市民文化会館・市立図書館リラスホール	○	岩手県大船渡市盛町下館下18-1
24	2009.5	北区中央図書館		東京都北区十条台1丁目2-5
25	2009.3	日進市立図書館		愛知県日進市蟹甲町中島3
26	2008.3	呉市音部市民センター	○	広島県呉市音部町南隠渡1丁目7-1
27	2008.12	まなびの館ローズコム		広島県福山市霞町1-10-1
28	2003.9	福井県立図書館・文書館		福井県福井市下馬町51-11
29	2003.3	せんだいメディアテーク		宮城県仙台市青葉区青葉区春日町2-1
30	2003.12	山口情報芸術センター		山口県山口市 中園町7-7
31	2002.7	国立国会図書館国際こども図書館		東京都台東区上野公園12-49
32	2002.3	くにさき総合文化センター アストくにさき		大分県国東市国東町鶴川160番地2
33	2002.2	茨城県立図書館		茨城県水戸市三の丸1丁目5-38
34	2002.11	国立国会図書館関西館		京都府相楽郡精華町精華台8丁目1-3
35	2002.10	ひらたタウンセンター		山形県酒田市飛鳥契約場35
36	2001.7	豊栄市立図書館		新潟県新潟市北区東栄町1丁目1-35
37	2001.5	三ヶ日町立図書館		静岡県浜松市北区三ヶ日町宇志799-1
38	2001.4	中村町総合文化センター		東京都江戸川区中央4丁目14-1
39	2001.3	むつ市立図書館		青森県むつ市中央2丁目3-10
40	2000.9	中里村図書館 ファーストステージ		新潟県中魚沼郡中里村
41	2000.5	富山県総合福祉会館		富山県富山市安住町5-21
42	2000.3	めくばーる三輪		福岡県朝倉郡筑前町久光951-1
43	2000.2	文化フォーラム春日井		愛知県春日井市鳥居松町5丁目44
44	2000.11	朝日町エコミュージアムコアセンター		山形県西村山郡朝日町大字宮宿2265
45	2000.1	大社文化プレイス		島根県出雲市大社町杵築南1338-9
46	1999.7	不知火町立図書館		千葉県千葉市中央区弁天3丁目7-7
47	1999.12	蓮田市図書館		埼玉県蓮田市上2丁目11-7
48	1999.11	十日町情報館		新潟県十日町市西本町2丁目1-1
49	1998.5	宮城県立図書館	○	宮城県仙台市泉区紫山1丁目1-1
50	1998.4	熊谷文化創造館		埼玉県熊谷市拾六間111-1
51	1998.12	下館市立図書館(現 筑西市立中央図書館)		茨城県筑西市下岡崎1丁目11-1
52	1998.12	太田市市立図書館		群馬県太田市浜町2番35号
53	1998.10	瀬高町立図書館		福岡県みやま市瀬高町下庄800番地1
54	1997.7	国分シビックセンター		鹿児島県霧島市国分中央3丁目45
55	1997.5	大阪府立図書館		大阪府北区中之島1-2-10
56	1997.4	悠邑ふるさと会館		島根県邑智郡川本町川本332-15
57	1997.3	泉佐野市総合文化センター	○	大阪府泉佐野市 市場東1丁目295-1
58	1997.3	本の森厚岸情報館		北海道厚岸郡厚岸町宮園1丁目1
59	1996.5	神戸町立図書館		岐阜県安八郡神戸町北一色821-1
60	1996.4	岐阜県図書館		岐阜県岐阜市宇佐4丁目2-1
61	1996.12	湖東町立図書館		滋賀県東近江市横溝町1967
62	1996.10	金沢市立泉野図書館		石川県金沢市泉野町4丁目22-22
63	1995.6	守谷中央図書館		茨城県守谷市大柏937-2
64	1995.5	豊の国情報ライブラリー		大分県大分市大字駄原587番地の1

表 2. 質問紙調査：質問項目一覧

物理的環境評価	景観	1. 図書館の外観は美しい 2. 図書館の内装は利用していて落ち着く 3. 館内の設備は整頓されている
	歴史	1. 歴史ある図書館である 2. 図書館の建物から歴史を感じる 3. 歴史的な雰囲気のある図書館だと思う
	調和	1. 建物は地域の街並みに馴染んでいる 2. 街の景観に対して図書館は違和感がない 3. 周辺の風景との統一感がある
	シンボル	1. 他の図書館にはないシンボルがある 2. この図書館と聞いてイメージできる空間がある 3. 図書館に関して思い浮かぶ特徴がある
	サービス・設備	1. 読書スペースや学習スペースは充分にある 2. レファレンスデスク(質問の受付コーナー)が整備されている 3. 読み聞かせのための空間がきちんと用意されている
社会的環境評価	交流	1. 図書館を利用するときは一人きりでいたい 2. 図書館職員や他の利用者と日常的な会話をすることがある 3. 他の利用者や職員と交流を持ちたいと思う
	イベント	1. 図書館で行われるイベントに興味がある 2. 図書館で行われるイベントが楽しみである 3. 図書館のイベントに積極的に参加したい
	人的サービス	1. 利用に関して困った時は職員を頼ることが多い 2. 難しい質問をしても職員は的確に回答してくれると思う 2. 図書館職員は親切だと感じる
	安心	1. 図書館の利用が他の利用者によって妨げられることはない 2. 他の利用者はきちんと図書館のルールを守って利用している 3. 図書館を安心して利用できるのは図書館のおかげである
愛着評価	継続利用	1. 今後もこの図書館を利用したいと思う 2. この図書館にまた来たいと思う 3. 今度は他の図書館を利用しようと思う
	所属意識	1. この図書館を利用することは生活の一部である 2. この図書館は地域の一部であると感じる 3. 手伝えることがあれば図書館の手伝いをしたいと感じる
	依存	1. 自分にとってなくてはならない図書館である 2. この図書館がないと困ってしまう 3. この図書館は地域にとって重要な存在だと思う
	評価	1. この図書館は気持ちよく利用できる 2. この図書館は満足できる図書館である 3. 図書館は快適に利用できる

表 3. 愛着形成モデルの結果詳細

係数: (グループ番号 1 - モデル番号 1)						
パスの方向			推定値	標準誤差	検定統計量	確率
愛着	<---	物理的環境評価	0.670	0.069	9.668	***
愛着	<---	社会的環境評価	0.266	0.056	4.716	***
所属意識	<---	愛着	0.905	0.060	15.107	***
依存	<---	愛着	0.961	0.063	15.232	***
評価	<---	愛着	1.000			
頻度	<---	愛着	0.220	0.068	3.220	0.001
継続利用	<---	愛着	0.190	0.059	3.236	0.001

標準化係数: (グループ番号 1 - モデル番号 1)			
パスの方向			推定値
愛着	<---	物理的環境評価	0.519
愛着	<---	社会的環境評価	0.243
所属意識	<---	愛着	0.796
依存	<---	愛着	0.782
評価	<---	愛着	0.824
頻度	<---	愛着	0.16
継続利用	<---	愛着	0.161

共分散: (グループ番号 1 - モデル番号 1)						
パスの方向			推定値	標準誤差	検定統計量	確率
物理的環境評価	<-->	社会的環境評価	0.154	0.013	12.236	***
e4	<-->	e8	0.081	0.015	5.467	***
e1	<-->	e4	0.055	0.016	3.339	***
e3	<-->	e5	-0.06	0.014	-4.138	***

表 4. 愛着形成モデルの適合度一覧

CMIN

モデル	NPAR	CMIN	自由度	確率	CMIN/DF
モデル番号 1	18.00	9.94	10.00	0.45	0.99
飽和モデル	28.00	0.00	0.00		
独立モデル	7.00	1156.33	21.00	0.00	55.06

RMR, GFI

モデル	RMR	GFI	AGFI	PGFI
モデル番号 1	0.01	0.99	0.98	0.36
飽和モデル	0.00	1.00		
独立モデル	0.13	0.51	0.34	0.38

基準比較

モデル	NFI Delta1	RFI rho1	IFI Delta2	TLI rho2	CFI
モデル番号 1	0.99	0.98	1.00	1.00	1.00
飽和モデル	1.00		1.00		1.00
独立モデル	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

RMSEA

モデル	RMSEA	LO 90	HI 90	PCLOSE
モデル番号 1	0.00	0.00	0.05	0.95
独立モデル	0.34	0.33	0.36	0.00

表 5. 認知を考慮した愛着形成モデルの詳細

係数: (グループ番号 1 - モデル番号 1)

パスの方向			推定値	標準誤差	検定統計量	確率
社会的環境評価	<---	認知	-0.287	0.079	-3.643	***
物理的環境評価	<---	認知	-0.165	0.056	-2.918	0.004
愛着	<---	物理的環境評価	0.672	0.069	9.756	***
愛着	<---	社会的環境評価	0.313	0.058	5.362	***
愛着	<---	認知	0.194	0.065	2.974	0.003
所属意識	<---	愛着	0.887	0.059	15.118	***
依存	<---	愛着	0.952	0.061	15.548	***
評価	<---	愛着	1.000			
頻度	<---	愛着	0.214	0.067	3.176	0.001
継続利用	<---	愛着	0.197	0.058	3.402	***
コンセプト	<---	認知	1.000			
地域性	<---	認知	0.501	0.110	4.564	***

標準化係数: (グループ番号 1 - モデル番号 1)

			推定値
社会的環境評価	<---	認知	-0.254
物理的環境評価	<---	認知	-0.172
愛着	<---	物理的環境評価	0.517
愛着	<---	社会的環境評価	0.283
愛着	<---	認知	0.156
所属意識	<---	愛着	0.79
依存	<---	愛着	0.78
評価	<---	愛着	0.83
頻度	<---	愛着	0.157
継続利用	<---	愛着	0.168
コンセプト	<---	認知	0.966
地域性	<---	認知	0.571

共分散: (グループ番号 1 - モデル番号 1)

			推定値	標準誤差	検定統計量	確率
e11	<-->	e12	0.145	0.012	11.9	***
e4	<-->	e8	0.079	0.015	5.328	***
e1	<-->	e4	0.057	0.016	3.442	***
e3	<-->	e5	-0.06	0.014	-4.203	***
e3	<-->	e9	-0.026	0.009	-2.819	0.005

表 6. 認知を考慮した愛着形成モデルの適合度一覧

CMIN					
モデル	NPAR	CMIN	自由度	確率	CMIN/DF
モデル番号 1	26	37.521	19	0.007	1.975
飽和モデル	45	0	0		
独立モデル	9	1402.396	36	0	38.955

RMR, GFI				
モデル	RMR	GFI	AGFI	PGFI
モデル番号 1	0.013	0.983	0.96	0.415
飽和モデル	0	1		
独立モデル	0.103	0.535	0.419	0.428

基準比較					
モデル	NFI	RFI	IFI	TLI	CFI
	Delta1	rho1	Delta2	rho2	
モデル番号 1	0.973	0.949	0.987	0.974	0.986
飽和モデル	1		1		1
独立モデル	0	0	0	0	0

RMSEA				
モデル	RMSEA	LO 90	HI 90	PCLOSE
モデル番号 1	0.046	0.024	0.067	0.591
独立モデル	0.287	0.274	0.3	0

「真壁図書館に関するアンケート調査」

このアンケートは、真壁図書館に来館された高校生以上の皆様に回答をお願いしております。

【調査について】

- 本調査は図書館利用者が図書館に対して感じる愛着を測定することを目的としています。
- 本調査は真壁図書館の許可を得て実施しておりますが、内容や実施の責任は筑波大学にあり、真壁図書館は無関係です。

【記入上のご注意】

- 記入いただいた内容は本研究のためだけに使用し、それ以外の目的では使用しません。
- 無記名で回答していただいた上で、集計して使用します。研究成果は論文として公表しますが、回答者が特定される可能性があるような記述はいたしません。
- 調査に回答するかしないかは自由です。また、回答を始めた後でも、いつでも回答をやめてかまいませんし、調査票を返却しなくてもかまいません。回答して調査員に調査票を返却することで、調査に同意いただいたこととさせていただきます。
- ご不明な点がある場合は、調査員に直接お尋ねくださるか、下記までお問い合わせください。

調査実施者：高山 有希（筑波大学大学院図書館情報メディア研究科・博士前期課程）

調査責任者：歳森 敦（筑波大学図書館情報メディア系・教授）

連絡先 E-mail: takayama@slis.tsukuba.ac.jp

Q1. あなたはどれくらいの頻度で真壁図書館を利用していますか？

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. 年に数回 | 2. 月に 1～2 回 |
| 3. 週に 1～2 回 | 4. ほぼ毎日利用する |

Q2. 真壁図書館での平均的な滞在時間はどのくらいですか？

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 30 分未満 | 2. 30 分以上～1 時間未満 |
| 3. 1 時間以上～2 時間未満 | 4. 2 時間以上～3 時間未満 |
| 5. 3 時間以上～4 時間未満 | 6. 4 時間以上 |

Q3. 本日、来館された目的はなんですか？

あてはまると思う選択肢の番号すべてに○を付けてください。（複数選択可）

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 図書などの蔵書を閲覧・視聴する | 2. 図書などの蔵書を借りる・返す |
| 3. 勉強・研究・仕事・調べ物をする | 4. 図書館員に質問・相談する |
| 5. 子どもの付き添い | 6. イベントへの参加 |
| 7. その他（ ） | |

Q4. 真壁図書館を利用するようになって、どのくらいの期間が経ちますか？

旧真壁公民館図書室を利用されていた方は、累計の利用年数をお答えください。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 2 年未満 | 2. 2 年～4 年 |
| 3. 5 年～9 年 | 4. 10 年～14 年 |
| 5. 15 年～19 年 | 6. 20 年～29 年 |
| 7. 30 年～39 年 | 8. 40 年以上 |

Q5. あなたは真壁図書館に関する以下の記述をどのように感じますか。項目ごとに最もあてはまる選択

肢の番号ひとつに○を付けてください。

	全く そう 思わない	そう は 思わ ない	ど ち ら で も な い	そ う 思 う	と と も そ う 思 う
1. 館内の設備は整頓されている	1	2	3	4	5
2. 街の景観に対して図書館は違和感がない	1	2	3	4	5
3. 図書館で行われるイベントに興味がある	1	2	3	4	5
4. 読み聞かせのための空間がきちんと用意されている	1	2	3	4	5
5. この図書館は気持ちよく利用できる	1	2	3	4	5
6. 図書館職員は親切だと感じる	1	2	3	4	5
7. 利用に関して困った時は職員を頼ることが多い	1	2	3	4	5
8. 図書館の利用が他の利用者によって妨げられることはない	1	2	3	4	5
9. 図書館のイベントに積極的に参加したい	1	2	3	4	5
10. 他の図書館にはないシンボルがある	1	2	3	4	5
11. レファレンスデスク（質問の受付コーナー）が整備されている	1	2	3	4	5
12. 他の利用者はきちんと図書館のルールを守って利用している	1	2	3	4	5
13. 今度は他の図書館を利用しようと思う	1	2	3	4	5
14. 図書館の外観は美しい	1	2	3	4	5
15. 図書館の建物から歴史を感じる	1	2	3	4	5
16. この図書館は満足できる図書館である	1	2	3	4	5
17. 図書館を利用するときは一人きりでいたい	1	2	3	4	5
18. 図書館に関して思い浮かぶ特徴がある	1	2	3	4	5
19. 歴史的な雰囲気のある図書館だと思う	1	2	3	4	5
20. 他の利用者や職員と交流を持ちたいと思う	1	2	3	4	5
21. この図書館を利用することは生活の一部である	1	2	3	4	5
22. 今後もこの図書館を利用したいと思う	1	2	3	4	5
23. この図書館は地域にとって重要な存在だと思う	1	2	3	4	5
24. この図書館 と聞いてイメージできる空間がある	1	2	3	4	5
25. 歴史ある図書館である	1	2	3	4	5
26. 図書館職員や他の利用者と日常的な会話をすることがある	1	2	3	4	5
27. 自分にとってなくてはならない図書館である	1	2	3	4	5
28. 建物は地域の街並みに馴染んでいる	1	2	3	4	5

Q5. あなたは真壁図書館に関する以下の記述をどのように感じますか。項目ごとに最もあてはまる選択肢

の番号ひとつに○を付けてください。

	全く そう 思わない	そう は 思わ ない	ど ち ら で も な い	そ う 思 う	と と も そ う 思 う
29. この図書館がないと困ってしまう	1	2	3	4	5
30. この図書館は地域の一部であると感じる	1	2	3	4	5
31. 周辺の風景との統一感がある	1	2	3	4	5
32. この図書館にまた来たいと思う	1	2	3	4	5
33. 読書スペースや学習スペースは充分にある	1	2	3	4	5
34. 図書館は快適に利用できる	1	2	3	4	5
35. 図書館で行われるイベントが楽しみである	1	2	3	4	5
36. 図書館の内装は利用していて落ち着く	1	2	3	4	5
37. 手伝えることがあれば図書館の手伝いをしたいと感じる	1	2	3	4	5
38. 図書館を安心して利用できるのは図書館職員のおかげである	1	2	3	4	5
39. 難しい質問をしても職員は的確に回答してくれると思う	1	2	3	4	5

Q6. 真壁地区では城下町としての街並みがよく残っていることを知っていましたか？

1. 知っていた	2. 知らなかった
----------	-----------

Q7. 真壁図書館を含む真壁伝承館の建物は「地域にある既存の建物の形や大きさを参考とし、景観を受け継ぐ」をコンセプトに設計がなされていることを知っていましたか？

1. 知っていた	2. 知らなかった
----------	-----------

Q8. Q7. で「1. 知っていた」とお答えいただいた方にうかがいます（「2. 知らなかった」と答えた方は Q9. に進んでください）。どのような経緯で地域の特徴が反映されていることを知りましたか？あてはまるすべての選択肢の番号に○を付けてください。

1. 図書館職員から聞いた	2. 他の利用者から聞いた
3. 地域の住民から聞いた	4. 図書館の広報誌・Web ページで知った
5. 自治体が発行した広報誌等で知った	6. 4. や 5. 以外の新聞・雑誌・テレビ・WEB
7. 設計に関する会議に参加して知った	などで知った
8. その他（ ）	

Q9. あなたの性別について当てはまる選択肢に○を付けてください。

1. 男性	2. 女性
-------	-------

Q10. あなたの年齢について当てはまる選択肢に○を付けてください。

1. 10 歳代	2. 20 歳代
3. 30 歳代	4. 40 歳代
5. 50 歳代	6. 60 歳代
7. 70 歳代	8. 80 歳以上

Q11. あなたの職業について当てはまる選択肢に○を付けてください。

1. 高校生	2. 大学生（大学院生）・専門学生・短大生
3. パート・アルバイト	4. 主婦・主夫
5. 会社員・公務員	6. 自営業
7. 無職	8. その他（ ）

Q12. 現在、居住している市町村に当てはまる選択肢に○を付けてください。

1. 桜川市	2. 笠間市
3. 石岡市	4. つくば市
5. 筑西市	6. 真岡市
7. 益子町	8. 茂木町
9. その他の市町村（ ）	

Q13. 上記設問 Q12. で回答した市町村にあなたが住むようになってどれくらいの年数が経過しましたか？
当てはまる選択肢に○を付けてください。

1. 2 年未満	2. 2 年～4 年
3. 5 年～9 年	4. 10 年～14 年
5. 15 年～19 年	6. 20 年～29 年
7. 30 年～39 年	8. 40 年以上

質問項目は以上となります。

ご協力ありがとうございました。

「唐木田図書館に関するアンケート調査」

このアンケートは、唐木田図書館来館者の皆様に回答をお願いしております。

【調査について】

- 本調査は図書館利用者が図書館に対して感じる愛着を測定することを目的としています。
- 本調査は唐木田図書館の許可を得て実施しておりますが、内容や実施の責任は筑波大学にあり、唐木田図書館は無関係です。

【記入上のご注意】

- 記入いただいた内容は本研究のためだけに使用し、それ以外の目的では使用しません。
- 無記名で回答していただいた上で、集計して使用します。研究成果は論文として公表しますが、回答者が特定される可能性があるような記述はいたしません。
- 調査に回答するかしないかは自由です。また、回答を始めた後でも、いつでも回答をやめてかまいませんし、調査票を返却しなくてもかまいません。回答して調査員に調査票を返却することで、調査に同意いただいたこととさせていただきます。
- ご不明な点がある場合は、調査員に直接お尋ねくださるか、下記までお問い合わせください。

調査実施者：高山 有希（筑波大学大学院図書館情報メディア研究科・博士前期課程）

調査責任者：歳森 敦（筑波大学図書館情報メディア系・教授）

連絡先 E-mail : takayama@slis.tsukuba.ac.jp

Q6. あなたはどれくらいの頻度で唐木田図書館を利用していますか？

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. 年に数回 | 2. 月に 1～2 回 |
| 3. 週に 1～2 回 | 4. ほぼ毎日利用する |

Q7. 唐木田図書館での平均的な滞在時間はどのくらいですか？

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 30 分未満 | 2. 30 分以上～1 時間未満 |
| 3. 1 時間以上～2 時間未満 | 4. 2 時間以上～3 時間未満 |
| 5. 3 時間以上～4 時間未満 | 5. 4 時間以上 |

Q8. 本日、来館された目的はなんですか？

あてはまると思う選択肢の番号すべてに○を付けてください。（複数選択可）

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 図書などの蔵書を閲覧・視聴する | 2. 図書などの蔵書を借りる・返す |
| 3. 勉強・研究・仕事・調べ物をする | 4. 図書館員に質問・相談する |
| 5. 子どもの付き添い | 6. イベントへの参加 |
| 7. その他（ ） | |

Q9. 唐木田図書館を利用するようになって、どのくらいの期間が経ちますか？

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 2 年未満 | 2. 2 年～4 年 |
| 3. 5 年～9 年 | 4. 10 年～14 年 |
| 5. 15 年～19 年 | 6. 20 年～29 年 |
| 7. 30 年～39 年 | 8. 40 年以上 |

Q10. あなたは唐木田図書館に関する以下の記述をどのように感じますか。項目ごとに最もあてはまる選

択肢の番号ひとつに○を付けてください。

	全く そう 思わない	そう は 思わ ない	ど ち ら で も な い	そ う 思 う	と と も そ う 思 う
40. 図書館に関して思い浮かぶ特徴がある	1	2	3	4	5
41. 図書館の外観は美しい	1	2	3	4	5
42. この図書館は気持ちよく利用できる	1	2	3	4	5
43. 手伝えることがあれば図書館の手伝いをしたいと感じる	1	2	3	4	5
44. 図書館は快適に利用できる	1	2	3	4	5
45. 館内の設備は整頓されている	1	2	3	4	5
46. 他の利用者や職員と交流を持ちたいと思う	1	2	3	4	5
47. 図書館職員は親切だと感じる	1	2	3	4	5
48. 難しい質問をしても職員は的確に回答してくれると思う	1	2	3	4	5
49. 他の図書館にはないシンボルがある	1	2	3	4	5
50. 図書館の利用が他の利用者によって妨げられることはない	1	2	3	4	5
51. 今後もこの図書館を利用したいと思う	1	2	3	4	5
52. 街の景観に対して図書館は違和感がない	1	2	3	4	5
53. 図書館の内装は利用していて落ち着く	1	2	3	4	5
54. 図書館の建物から歴史を感じる	1	2	3	4	5
55. 読書スペースや学習スペースは充分にある	1	2	3	4	5
56. 図書館を安心して利用できるのは図書館のおかげである	1	2	3	4	5
57. この図書館は地域にとって重要な存在だと思う	1	2	3	4	5
58. 歴史的な雰囲気のある図書館だと思う	1	2	3	4	5
59. この図書館 と聞いてイメージできる空間がある	1	2	3	4	5
60. この図書館にまた来たいと思う	1	2	3	4	5
61. 今度は他の図書館を利用しようと思う	1	2	3	4	5
62. 歴史ある図書館である	1	2	3	4	5
63. 図書館のイベントに積極的に参加したい	1	2	3	4	5
64. 自分にとってなくてはならない図書館である	1	2	3	4	5
65. この図書館は満足できる図書館である	1	2	3	4	5
66. 読み聞かせのための空間がきちんと用意されている	1	2	3	4	5
67. この図書館は地域の一部であると感じる	1	2	3	4	5

Q5. あなたは唐木田立図書館に関する以下の記述をどのように感じますか。項目ごとに最もあてはまる選択肢の番号ひとつに○を付けてください。

	全く そう 思わない	そう は 思わ ない	ど ち ら で も な い	そ う 思 う	と と も そ う 思 う
68. 図書館職員や他の利用者と日常的な会話をすることがある	1	2	3	4	5
69. 利用に関して困った時は職員を頼ることが多い	1	2	3	4	5
70. 他の利用者はきちんと図書館のルールを守って利用している	1	2	3	4	5
71. 図書館で行われるイベントが楽しみである	1	2	3	4	5
72. 建物は地域の街並みに馴染んでいる	1	2	3	4	5
73. 周辺の風景との統一感がある	1	2	3	4	5
74. この図書館を利用することは生活の一部である	1	2	3	4	5
75. レファレンスデスク（質問の受付コーナー）が整備されている	1	2	3	4	5
76. 図書館で行われるイベントに興味がある	1	2	3	4	5
77. この図書館がないと困ってしまう	1	2	3	4	5
78. 図書館を利用するときは一人きりでいたい	1	2	3	4	5

Q14. からきだ菖蒲館が建っている土地は以前、小さな丘であったことを知っていましたか？

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 知っていた | 2. 知らなかった |
|----------|-----------|

Q15. 唐木田図書館を含むからきだ菖蒲館の建物は「地域に昔、存在していた丘」をコンセプトに設計がなされていることを知っていましたか？

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 知っていた | 2. 知らなかった |
|----------|-----------|

Q16. Q7. で「1. 知っていた」とお答えいただいた方にうかがいます（「2. 知らなかった」と答えた方は Q8. に進んでください）。どのような経緯で地域の特徴が反映されていることを知りましたか？あてはまるすべての選択肢の番号に○を付けてください。

- | | |
|---------------------|-----------------------------|
| 1. 図書館職員から聞いた | 2. 他の利用者から聞いた |
| 3. 地域の住民から聞いた | 4. 図書館の広報誌・Web ページで知った |
| 5. 自治体が発行した広報誌等で知った | 6. 4. や 5. 以外の新聞・雑誌・テレビ・WEB |
| 7. 設計に関する会議に参加して知った | などで知った |
| 8. その他（ ） | |

Q17. あなたの性別について当てはまる選択肢に○を付けてください。

1. 男性	2. 女性
-------	-------

Q18. あなたの年齢について当てはまる選択肢に○を付けてください。

1. 10 歳代	2. 20 歳代
3. 30 歳代	4. 40 歳代
5. 50 歳代	6. 60 歳代
7. 70 歳代	8. 80 歳以上

Q19. あなたの職業について当てはまる選択肢に○を付けてください。

1. 高校生	2. 大学生（大学院生）・専門学生・短大生
3. パート・アルバイト	4. 主婦・主夫
5. 会社員・公務員	6. 自営業
7. 無職	8. その他（ ）

Q20. 現在、居住している市町村に当てはまる選択肢に○を付けてください。

1. 多摩市	2. 稲城市
3. 府中市	4. 日野市
5. 八王子市	6. 町田市
7. 川崎市	8. その他の市町村（ ）

Q21. 上記設問 Q11. で回答した市町村にあなたが住むようになってどれくらいの年数が経過しましたか？
当てはまる選択肢に○を付けてください。

1. 2 年未満	2. 2 年～4 年
3. 5 年～9 年	4. 10 年～14 年
5. 15 年～19 年	6. 20 年～29 年
7. 30 年～39 年	8. 40 年以上

質問項目は以上となります。

ご協力ありがとうございました。

このアンケートは、高校生以上の飯能市立図書館利用者の皆様に回答をお願いしております。

【調査について】

- 本調査は図書館利用者が図書館に対して感じる愛着を測定することを目的としています。
- 本調査は飯能市立図書館の許可を得て実施しておりますが、内容や実施の責任は筑波大学にあり、飯能市立図書館は無関係です。

【記入上のご注意】

- 記入いただいた内容は本研究のためだけに使用し、それ以外の目的では使用しません。
- 無記名で回答していただいた上で、集計して使用します。研究成果は論文として公表しますが、回答者が特定される可能性があるような記述はいたしません。
- 調査に回答するかしないかは自由です。また、回答を始めた後でも、いつでも回答をやめてかまいませんし、調査票を返却しなくてもかまいません。回答して調査員に調査票を返却することで、調査に同意いただいたこととさせていただきます。
- ご不明な点がある場合は、調査員に直接お尋ねくださるか、下記までお問い合わせください。

調査実施者：高山 有希（筑波大学大学院図書館情報メディア研究科・博士前期課程）

調査責任者：歳森 敦（筑波大学図書館情報メディア系・教授）

連絡先 E-mail : takayama@slis.tsukuba.ac.jp

Q11. あなたはどれくらいの頻度で飯能市立図書館を利用していますか？

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. 年に数回 | 2. 月に 1～2 回 |
| 3. 週に 1～2 回 | 4. ほぼ毎日利用する |

Q12. 飯能市立図書館での平均的な滞在時間はどのくらいですか？

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 30 分未満 | 2. 30 分以上～1 時間未満 |
| 3. 1 時間以上～2 時間未満 | 4. 2 時間以上～3 時間未満 |
| 5. 3 時間以上～4 時間未満 | 5. 4 時間以上 |

Q13. 本日、来館された目的はなんですか？

あてはまると思う選択肢の番号すべてに○を付けてください。（複数選択可）

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 図書などの蔵書を閲覧・視聴する | 2. 図書などの蔵書を借りる・返す |
| 3. 勉強・研究・仕事・調べ物をする | 4. 図書館員に質問・相談する |
| 5. 子どもの付き添い | 6. イベントへの参加 |
| 7. その他（ ） | |

Q14. 飯能市立図書館を利用するようになって、どのくらいの期間が経ちますか？

旧飯能市立図書館を利用されていた方は、累計の利用年数をお答えください。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 2 年未満 | 2. 2 年～4 年 |
| 3. 5 年～9 年 | 4. 10 年～14 年 |
| 5. 15 年～19 年 | 6. 20 年～29 年 |
| 7. 30 年～39 年 | 8. 40 年以上 |

Q15. あなたは飯能市立図書館に関する以下の記述をどのように感じますか。項目ごとに最もあてはまる選択肢の番号ひとつに○を付けてください。

	全く そう 思わない	そう は 思わ ない	ど ち ら で も な い	そ う 思 う	と と も そ う 思 う
79. 図書館は快適に利用できる	1	2	3	4	5
80. この図書館は満足できる図書館である	1	2	3	4	5
81. 館内の設備は整頓されている	1	2	3	4	5
82. 街の景観に対して図書館は違和感がない	1	2	3	4	5
83. 周辺の風景との統一感がある	1	2	3	4	5
84. 今度は他の図書館を利用しようと思う	1	2	3	4	5
85. この図書館を利用することは生活の一部である	1	2	3	4	5
86. この図書館にまた来たいと思う	1	2	3	4	5
87. 図書館職員は親切だと感じる	1	2	3	4	5
88. 手伝えることがあれば図書館の手伝いをしたいと感じる	1	2	3	4	5
89. この図書館 と聞いてイメージできる空間がある	1	2	3	4	5
90. 図書館を利用するときは一人きりでいたい	1	2	3	4	5
91. 図書館の建物から歴史を感じる	1	2	3	4	5
92. 図書館職員や他の利用者と日常的な会話をすることがある	1	2	3	4	5
93. この図書館は地域にとって重要な存在だと思う	1	2	3	4	5
94. 今後もこの図書館を利用したいと思う	1	2	3	4	5
95. レファレンスデスク（質問の受付コーナー）が整備されている	1	2	3	4	5
96. 図書館のイベントに積極的に参加したい	1	2	3	4	5
97. この図書館がないと困ってしまう	1	2	3	4	5
98. 読み聞かせのための空間がきちんと用意されている	1	2	3	4	5
99. 他の利用者はきちんと図書館のルールを守って利用している	1	2	3	4	5
100. 図書館に関して思い浮かぶ特徴がある	1	2	3	4	5
101. 他の図書館にはないシンボルがある	1	2	3	4	5
102. 図書館で行われるイベントに興味がある	1	2	3	4	5
103. この図書館は気持ちよく利用できる	1	2	3	4	5
104. 図書館の外観は美しい	1	2	3	4	5
105. 読書スペースや学習スペースは充分にある	1	2	3	4	5
106. 難しい質問をしても職員は的確に回答してくれると思う	1	2	3	4	5

Q5. あなたは飯能市立図書館に関する以下の記述をどのように感じますか。項目ごとに最もあてはまる選択肢の番号ひとつに○を付けてください。

	全く そう 思わない	そう は 思わ ない	ど ち ら で も な い	そ う 思 う	と と も そ う 思 う
107. 図書館の利用が他の利用者によって妨げられることはない	1	2	3	4	5
108. 他の利用者や職員と交流を持ちたいと思う	1	2	3	4	5
109. 建物は地域の街並みに馴染んでいる	1	2	3	4	5
110. 図書館で行われるイベントが楽しみである	1	2	3	4	5
111. 利用に関して困った時は職員を頼ることが多い	1	2	3	4	5
112. 図書館の内装は利用していて落ち着く	1	2	3	4	5
113. 自分にとってなくてはならない図書館である	1	2	3	4	5
114. 歴史的な雰囲気のある図書館だと思う	1	2	3	4	5
115. 図書館を安心して利用できるのは図書館職員のおかげである	1	2	3	4	5
116. この図書館は地域の一部であると感じる	1	2	3	4	5
117. 歴史ある図書館である	1	2	3	4	5

Q22. 「西川材」という、飯能市を流れる入間川、高麗川の流域などで生産され、江戸時代から利用されてきた木材のことを知っていましたか？

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 知っていた | 2. 知らなかった |
|----------|-----------|

Q23. 飯能市立図書館の建物は「地場産の建材である西川材を細部まで用いて建築を行うこと」をコンセプトとして建築されていることを知っていましたか？

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 知っていた | 2. 知らなかった |
|----------|-----------|

Q24. Q7. で「1. 知っていた」とお答えいただいた方にうかがいます（「2. 知らなかった」と答えた方は Q9. に進んでください）。どのような経緯で地域の特徴が反映されていることを知りましたか？あてはまるすべての選択肢の番号に○を付けてください。

- | | |
|---------------------|-----------------------------|
| 1. 図書館職員から聞いた | 2. 他の利用者から聞いた |
| 3. 地域の住民から聞いた | 4. 図書館の広報誌・Web ページで知った |
| 5. 自治体が発行した広報誌等で知った | 6. 4. や 5. 以外の新聞・雑誌・テレビ・WEB |
| 7. 設計に関する会議に参加して知った | などで知った |
| 8. その他（ ） | |

Q25. あなたの性別について当てはまる選択肢に○を付けてください。

1. 男性	2. 女性
-------	-------

Q26. あなたの年齢について当てはまる選択肢に○を付けてください。

1. 10 歳代	2. 20 歳代
3. 30 歳代	4. 40 歳代
5. 50 歳代	6. 60 歳代
7. 70 歳代	8. 80 歳以上

Q27. あなたの職業について当てはまる選択肢に○を付けてください。

1. 高校生	2. 大学生（大学院生）・専門学生・短大生
3. パート・アルバイト	4. 主婦・主夫
5. 会社員・公務員	6. 自営業
7. 無職	8. その他（ ）

Q28. 現在、居住している市町村に当てはまる選択肢に○を付けてください。

1. 飯能市	2. 入間市
3. 狭山市	4. 秩父市
5. 日高市	6. 秩父郡横瀬町
7. 比企郡ときがわ町	8. 入間郡越生町
9. 毛呂山町	10. 青梅市
11. 西多摩郡奥多摩町	12. その他の市町村（ ）

Q29. 上記設問 Q12. で回答した市町村にあなたが住むようになってどれくらいの年数が経過しましたか？

当てはまる選択肢に○を付けてください。

1. 2 年未満	2. 2 年～4 年
3. 5 年～9 年	4. 10 年～14 年
5. 15 年～19 年	6. 20 年～29 年
7. 30 年～39 年	8. 40 年以上

質問項目は以上となります。

ご協力ありがとうございました。